

## 特集

### I 第2回 定時総会

### II 公開講座 筑波大学ラグビーの軌跡

#### 目次

- グラビア …… 01～02
- 特集I 第2回 定時総会 …… 03～09
- 暑中見舞申し上げます …… 06～07
- 特集II 公開講座 筑波大学ラグビーの軌跡 …… 10～18
- 「東京都茗溪会」について 組織委員会 高野 力 …… 19
- 新しいホームページがスタート! …… 19
- 「茗溪フェロー」に申込み続く! …… 19
- 茗溪学園だより …… 20
- 平成25年春の叙勲 おめでとうございます …… 21
- 著書紹介 …… 21
- 桐の葉のつどい …… 21～23
- 追悼録 …… 24
- 代議員選挙のながれ …… 24
- 本部だより …… 25
- 編集後記 …… 25

# 茗溪

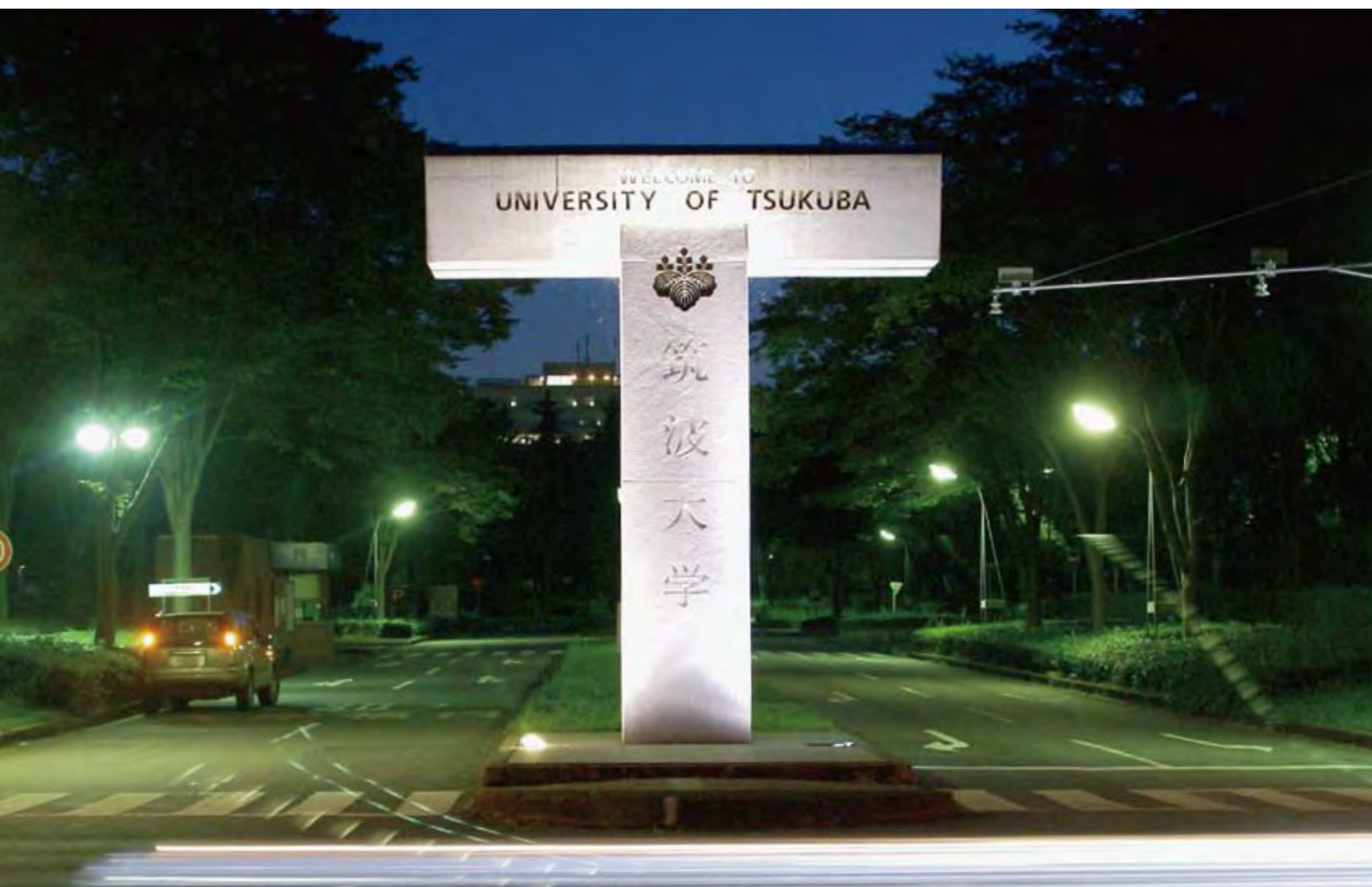


夏

2013

平成25年

no.1078



創立30周年を記念して10年前に建てられた、大学正門

Tは筑波のTと30周年のT、そしてトップ30のTを意味する。これを受けて当時の北原学長は、記念樹をイチイにされた（西川記）

## 太陽と花と蜜蜂が織りなす代表的健康食品

● 蜂蜜・ローヤルゼリー・プロポリス・花粉 ●

品名	容量	税込特価	参考説明
アカシア 純粋はちみつ (ハンガリー産)	1kg ポリ	¥ 2,100	「ハンガリー産アカシアはちみつ」は花の香りが高く、まろやかな風味が特徴です。果糖分が多いので長期に保存してもほとんど結晶しません。
	2kg ポリ	¥ 3,900	
	7.2kg ポリ	¥14,000	
ヴァイタル48 (生ローヤルゼリー)	40g	¥ 6,000	ヴァイタル48 (生) は栄養豊富で新鮮な生ローヤルゼリーをそのまま瓶詰めしました。無添加で生ものですので、冷蔵庫で保管してください。
	100g	¥12,900	
ゴールド200 (粒状ローヤルゼリー)	100粒	¥ 5,000	ゴールド200は1粒に生ローヤルゼリー換算200mgを含有しております。ローヤルゼリーには、豊富な栄養成分がバランスよく含まれています。
	300粒	¥11,900	
ビーポリス (ローヤルゼリー+プロポリス)	25g (約100粒)	¥ 7,500	ローヤルゼリーを配合した、粒状のプロポリスで小社が独自に開発しました。(特許第1736694号)
ユーカリーナ (粒状プロポリス)	75g (約300粒)	¥ 6,000	樹脂や蜜ろう、花粉の他に十種類の成分が含まれています。その中でもフラボノイドが注目されています。蜂精は、香気成分が強いため、最初は抵抗感があります。使い始めは、ユーカリーナをお勧めします。
蜂精 (プロポリスエキス)	30ml	¥10,000	
アピスポーレン (花粉)	100g	¥ 3,000	花粉は生命を育むのに必要な栄養素をバランスよく含む完全食品で、蜂蜜・ローヤルゼリーの成分は全て花粉に由来します。

### 商品仕様

アカシア 純粋はちみつ  
(ハンガリー産:1kg)



ヴァイタル48  
(生ローヤルゼリー)



ユーカリーナ  
(75g=約300粒)



食用花粉



※5,000円未満ご注文は実費運賃をお願いします。



日本養蜂のハイオニア

埼玉養蜂株式会社

健康友の会

〒364-0001

埼玉県北本市深井4-23

TEL: 0120-924-383

FAX: 048-543-5269

# 力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

**KAIT**

**神奈川工科大学**  
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030  
TEL.046-291-3002 URL: <http://www.kait.jp/>

理事長 中部 謙一郎  
理事 河野 隆二(S47農)  
顧問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)  
監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

科学的なセンスをもつ  
**管理栄養士**を養成  
応用バイオ科学部  
**栄養生命科学科**  
〔管理栄養士養成課程〕

#### 工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)  
電気電子情報工学科  
応用化学科

#### 創造工学部

自動車システム開発工学科  
ロボット・メカトロニクス学科  
ホームエレクトロニクス開発学科

#### 応用バイオ科学部

応用バイオ科学科  
栄養生命科学科  
〔管理栄養士養成課程〕

#### 情報学部

情報工学科  
情報ネットワーク・コミュニケーション学科  
情報メディア学科



## パネルディスカッション

パネラー 中川昭 (筑波大学教授、体育会ラグビー部部長)、他

司会 伊與田康雄 (筑波大学名誉教授)



主催 一般社団法人 茗溪会  
共催 筑波大学  
協力 茗溪学園、筑波大学ラグビー部・OB会



## 公開講座『筑波大学ラグビーの軌跡』 企画展会場、オープニングセレモニーなどから (P10～18 参照)







筑波大学長祝辞を代読する佐藤 忍教授



場内に掲示された嘉納治五郎先生の見守る中で会議はすすめられた

# 一般社団法人 茗溪会第2回 定時総会

平成25年5月30日(木) 於 茗溪会館



左 江田昌佑 理事長  
中 井口武雄 副理事長  
右 西川 潔 副理事長



一般社団法人

# 茗溪会 第2回 定時総会

平成25年5月30日(木) 茗溪会館にて

## 挨拶 (要旨)

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌佑

本日、一般社団法人茗溪会第2回定時総会を開催致しましたところ、お忙しい中にも関わりませず、全国からご参集いただき誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。

また、筑波大学からは永田恭介新学長よりお祝辞をいただけますことは誠に有難く恐縮致すところでございます。

私どもは、新しい法人の在り方の中心に、同窓会として大学との連携、協調関係を、今まで以上に強めて行こうと考えております。大学からのご指導もまた今まで以上に高配いただきますようお願い申しあげます。

茗溪会は、長い歴史と伝統に支えられ、その歩みの中で先輩方が多くの汗を流してこられました。私たちは、その汗を貴重な糧として更なる発展を図るために理事会内に、井口武雄副理事長を委員長として「キャンペーン委員会」を発足させ『茗溪会拡充キャンペーン』の推進を図ること致しました。

そして、同窓会としての互助事業の充実、公益目的事業の充実ならびに大学への支援事業の充実を拡充キャンペーンの三つの重要課題と位置づけました。そのため、会員の各世代をつなぐ事業として、筑波大学の学生と大学院生への支援の強化や会費完納者の皆さまの深いご理解、ご協力をいただきます上で「茗溪フェロー制度の創設」を行いました。また、「地域組織の強化」や、「職域における茗溪会組織の

拡大」「支部活動に対する支援強化」等と、「地域・職域をつなぐ事業」を押し進めて参ります。なお、このキャンペーンを押し進めて参るに際しましては、

- ・ 5%の会員増加
  - ・ 5%の収入増加
- そして

・ 5%の経費の削減  
を図ることを年間目標として頑張ろうということで、関係者一同の合言葉を『G・O・I・5・g・o』と名付けました。

また、会員をはじめ関係者の皆さまのお力添えをいただき、相互の認識を深めるため、季刊誌『茗溪』の正月号と夏号の誌上に、名刺広告の形で、賀状交換や暑中見舞いの欄を特設致しました。よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

何れに致しましても関係する皆さま方のご後援を賜りまして新しい法人体制を充実させて行き、ご期待に出来るべく一層の努力を払って参る所存でございます。本日は、時間の許すかぎり、十分なご審議の程をよろしくお願い申し上げます。

なお、皆さま既にご存知のように、国立大学と致しましては、わが筑波大学ラグビー部が、全国大会に出場いたしました。優勝こそ逸しましたものの、準優勝という快挙を成し遂げました。そこで、筑波大学の共催をいただきまして、茗溪会主催による公開講座として「講演と企画展」を、4月20日から6月2日までの間、当・茗溪会館において開催いたしておりますので、是非ご覧いただきますようお願い申し上げます。

また、全国大学男子バレーボール選手権で優勝、全国大学女子駅伝3位と、筑波大学運動部の活躍は目ざましいものがあり、ここにご紹介申し上げます。

これをもちまして、私の挨拶といたします。  
ご清聴有難うございました。



# 学長祝辞

国立大学法人

筑波大学長 永田 恭介

伝統ある茗溪会の平成25年度定時総会が開催されましたことに対し、敬意を表しますとともに、日頃の筑波大学への多大なるご支援に心からお礼を申し上げます。

最初に、昨年度における全国大学ラグビー選手権準優勝、全国大学男子バレーボール選手権優勝、全国大学女子駅伝3位を始めとする本学運動部の輝かしい成績に対して、茗溪会会員諸氏から多大なご支援をいただいたことに感謝の意を表します。

本学は、今年度から開学以来の3学期制から「6モジュール・2学期制」に変更し、新たな一歩を踏み出したところです。これは、教育の質のさらなる向上をねらいとするものであります。このほかに、現在、本学で取り組んでおります改革のいくつかを述べさせていただきます。

教育の実質化を進めるうえで切り札となるのが学位プログラムの導入だと考えています。学位プログラムとは、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程中心の考え方で、社会や学生の多様なニーズへの対応はもちろん、大学教育の質保証、学位の国際的通用性、教育組織の運営等の諸問題をも解決しうる教学システムです。今年度は学内的に理解の得られる行程表を策定し、全学的なコンセンサスに基づいて実効性のある学位プログラムの検討に着手していきたくと考えています。また、4月1

日に発足したグローバル・コミュニケーション機構は、学生のみならず、教員、職員のコミュニケーションスキル、国際活動リテラシーなどのトレーニングを支援することをねらいとするものです。これを拠点に本学がスローガンとして掲げる「国際性の日常化」を体現できるキャンパス環境を整備しています。

本学は、研究大学院大学として、さらに基礎及び応用科学の研究力の向上を目指す必要があります。本学は他に類を見ない研究分野を擁し、講座制によらない研究グループ制によって既存のディシプリンの枠を越えて社会のニーズに柔軟に対応し、特色ある研究成果を上げてきました。更なる研究力の向上を目指して、研究組織の再編成を含めて思い切った改革を進めようと考えています。

特定機能病院として重要な役割をもつ大学附属病院に昨年度新棟「けやき病棟」が竣工し、医療貢献の幅を拡大いたしました。先端的な研究開発を通して高度医療の実現を目指すとともに、つくば、茨城県をはじめとする地域の中核医療機関として責務を果たしてまいります。

本学は今年10月1日に筑波大学開学40周年、前身校から創基141年を迎えます。新構想大学として出発した本学が、世界的な教育研究拠点、知の国際連携活動拠点としてはもとより、つくばの人材育成拠点として、産官学協働の拠点として、そして「大学文化の薫る街」の中心として機能するためには、学生や教職員それぞれの個性を尊重し、その能力や特性を最大限に発揮できるような筑波大学文化の基盤を形成することが最も大切だと考えています。

大学はこれらを実現するために努力を続けます。今後茗溪会の皆さまからのご支援をお願いする次第です。

## 定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

附属校	日下部公昭	群馬	茂木道弘	豊島	醍醐路子	石川	久下恭功	兵庫	折戸善信
北海道	沖野隼夫	馬	佐藤功	八王子	小島和雄	静岡	杉本淳光	鳥取	有田博充
青森	遠藤智久	埼玉	相澤鎮夫	神奈川	小山和夫	愛知	鳥山勇	岡山	平田信彦
岩手	高橋光彦		奥谷多作		佐々木悦子		村松利之	広島	大辻明
宮城	蘇武德行		矢嶋章司		本木幹雄	岐阜	丹羽章	山口	鍋井邦久
秋田	船木賢咲		細田幸一		矢野正人	滋賀	豊田則成	徳島	木村潤
福島	鈴木弘文	千葉	青木寛	山梨	佐野純一	三重	寺田卓二	愛媛	藤井俊夫
茨城	河原井忠男		佐藤幸悟	長野	安藤善二	京都	塩見均	福岡	柴田晴夫
栃木	武井秀一	葛飾	渡邊悟	新潟	永井成一	大阪	佐藤隆一	佐賀	東島敏隆
	田島一利	新宿	浅井一郎		小野寺篤	奈良	藤善尚憲	長崎	浦下悦二
	上岡利夫	中央	中村穎司	富山	川腰善一	和歌山	米倉憲治	大分	鈴木基史

# 定時総会議事（要旨）

一般社団法人茗溪会第2回定時総会は、5月30日に茗溪会館において、代議員総数110名のうち、出席58名、委任状による出席35名、合計93名の出席を得て、田中正造常務理事より出席状況について報告があった。江田昌佑理事長の挨拶に続いて、筑波大学永田恭介学長の祝辞を同大学佐藤 忍教授が代読した。

## 議長就任、出席状況報告および開会宣言、議事録署名人の選出

定款第15条により議長に江田昌佑理事長が就き定款第19条第2項により議事録署名人には理事長と出席した理事全員であることを告げ、定款第17条により総会が成立した旨を告げ、開会を宣言し議事に入った。

## 審議事項

**第1号議案** 平成24年度事業報告、収支計算書等及び監査報告の承認について

田中正造常務理事から、資料に基づき平成24年度事業報告についての次のような説明があった。

### 1 会員状況

正会員数 21,708（昨年20,942）

登録者数 53,004

（2年間会費未納者を含む全登録会員数）

2 第1回定時総会は平成24年5月24日に開催。

3 理事会は年に7回、開催。

4 企画運営委員会は年4回、財務法務委員会は9月に随時と11月に、組織委員会は年3回、大学つくば地域支援委員会は年1回、公益広報委員会は年10回、地代問題検討委員会は年1回、校友会対策会議は年1回、筑波事務所運営会議は年1回、中間監査は1回、大学との連絡・懇談会は年1回開催された。

5 公益事業としては左記のような事業を行った。

① 学生活動支援 6月～7月に募集。審査会は8月31日。9月10日に15団体に助成金交付式。

② 顕彰事業 6月～7月に募集。10月20日に選考委員会。11月26日に社会貢献活動功労者の顕彰式（個人4人、団体7）。3月4日に大学院生及び芸術系学生対象の選考委員会。3月26日大学院生対象36人。芸術系学生対象3人を顕彰。

③ 公開講座 本部主催は4回。支部主催は6回。  
④ 大学支援事業 卒業式助成 茗溪筑波グラウンドフェスティバル ホームカミングデー 学園祭等  
⑤ 教職受験対策研修会補助

6 支部総会 21支部の総会に本部から理事を派遣  
7 追悼のつどい 9月8日 参列38家族58人  
8 筑波大学就職ガイダンス講師派遣 9月～11月

9 広報 季刊誌『茗溪』の発行 年4回（約10万部）  
田中正造常務理事から資料に基づき平成24年度収支計算書について、詳細な報告がされた。（項目別の収入及び支出は8ページの収支計算書を参考にされた）続いて審議事項である平成25年3月31日現在の貸借対照表と正味財産増減計算書（8ページを参考にされた）及び付属明細書を説明し、公益目的支出実施報告書を報告した。続いて、高橋三郎監事より監査報告がなされた。

議長が質問を求めたところ、渡邊悟代議員（葛飾）浅井一郎代議員（新宿）河原井忠男代議員（茨城）から、公益目的事業支出計画等について質問があり、田中正造常務理事と福岡一雄理事が答弁した。

議長は、第1号議案の承認を諮り、全会一致で異議なく承認された。

**第2号議案** 平成25年度事業計画（案）及び収支予算書（案）について

田中事務局長が資料（9ページ参照）に基づき説明した。この案件は定款では採決を要しない事項である。

**第3号議案** 定款の一部変更（第27条 報酬等）について  
**第4号議案** 理事監事に対する報酬等の規程の一部変更（第2条）について

**第5号議案** 監事の報酬等の額について（定款12条第3

号）

議長は、以上の第3号、第4号、第5号の3議案を一括審議することとして、田中正造常務理事に提案趣旨を説明させた。田中正造常務理事は資料により、まず理事・監事の報酬に関する定款第27条の一部変更を提案・説明し、次いで理事・監事に対する報酬等の規程第2条の一部変更を提案・説明した。

議長は、第3号、第4号、第5号の3議案について一括して一同に諮ったところ異議がなかった。議長は、定款変更の議決に関しては、定款第17条により、出席した社員（代議員）の議決権の3分の2以上をもっておこなわれることを説明した上で採決をおこなった。挙手による賛成は55名、委任状（議決権行使書）による賛成は35名、合計90名の賛成があり、代議員総数110名の議決権の3分の2以上にあたることを確認し、第3～5号議案が可決承認されたことを宣言した。

**第6号議案** 役員を選任（理事1名）について  
江田昌佑理事長が欠員補充として神林 喬氏を推薦し、任期は前任者の残任期間とし拍手で承認された。以上ですべての議事が終了した。

## 報告事項

- 1) 代議員選挙について
- 2) 茗溪会拡充キャンペーンについて
- 3) 支部への会費還元について
- 4) 茗溪会ホームページのリニューアルについて

## 諸連絡

- 1) 会員登録・会費納入状況について
  - 2) 新入学・新卒業生の入会状況について
  - 3) 会費納入方法の変更について
  - 4) 第12回（平成25年度）顕彰候補者の推薦について
  - 5) 支部からの提出・報告・連絡文書について
- 以上で、茗溪会通常総会は、予定されたすべての内容を終了し閉会した。

総会のあと、会場を4階に移して、会員懇談会が開催され、江田理事長の挨拶に引き続き懇談がなされた。

# 申し上げます

一般社団法人 茗溪会



茗溪会 理事  <b>鶴 沢 力</b> (昭和63年卒筑波大学社会学類)  tmuzawa@ma.kitanet.ne.jp	茗溪会 理事  <b>大 勝 信 明</b> (昭和26年卒文四)  墨林書道院特別顧問	茗溪会 理事  <b>川 田 孝 一</b> (昭和39年教大総農科)  (連絡先) 桜美林大学入試広報センター
株式会社 ユーハイム  代表取締役 社長 <b>河 本 武</b> (昭和37年卒体育学部健康学科)  〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-2-9	茗溪会 理事  <b>神 林 喬</b> (昭和40年教育学科卒)  横浜市青葉区大場町360-51	茗溪会 理事  <b>北 島 瑞 男</b> (昭和39年卒東京教育大学理学部数学科)  〒300-4513 筑西市中根361-2 TEL 0296-52-3977
茗溪会 理事  筑波大学生命 環境系教授 <b>佐 藤 忍</b> (昭和60年筑波大博士課程生物)  TEL 029-858-0772 e-mail:satoh.shinobu.ga@u.tsukuba.jp	茗溪会 理事 茗溪学園中学校高等学校 校 長 <b>柴 田 淳</b> (昭和52年教体卒 昭和56年筑修体)  〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611	茗溪会 理事  茗溪学園 理事長 <b>西 野 虎之介</b> (昭和28年卒教大農経科) (自宅) 〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場92 TEL 029-285-7786
堀内法律事務所  所長・弁護士 <b>堀 内 昭 三</b> (昭和35年教大法政)  〒305-0025 つくば市花室1011 TEL 029-857-4411 FAX 029-857-4412	2015年 龍谷大学農学部開設 龍谷大学 農学研究所 新学部設立事務室  <b>宮 尾 徹</b> (昭和54年筑波農林)  TEL 075-645-8637 miyao@ad.ryukoku.ac.jp	茗溪会 理事 筑波大学キャリア支援室長 教 授 <b>守 屋 正 彦</b> (昭和51年教大芸卒 昭和53年教大院修美)  〒305-0005 つくば市天久保4-5-4 TEL 0298-50-3901
飯塚公認会計士・税理士事務所 公認会計士・ <b>飯 塚 良 成</b> 税理士 (茗溪会監事)  (事務所) 〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台14-7 TEL 045-988-0846 mail:nqf46967@nifty.com	特定非営利活動法人 産業健康振興協会 企業、自治体等における健康測定 (HECS)・ 能力評価テスト (PEES)・ストレスマネジメント 理事長 <b>古 藤 昭 子</b> (昭和32年東京教育大学体育学部卒)  〒164-0011 東京都中野区中央1-43-15-602 TEL 03-3366-2810 FAX 03-3366-0857 URL http://www.jiha.or.jp	辯護士 <b>高 橋 三 郎</b>  (事務所) 〒113-0033 東京都文京区本郷3-9-4 本郷大関ビル7階 TLC 本郷 TEL 03-5962-5908 (直通) 03-3811-2231 (代表) (自宅) 〒270-0021 千葉県松戸市小金原3-9-4 TEL・FAX 047-345-6070

## 『茗溪会拡充キャンペーン』を 成功させるために！

茗溪会第2回定時総会で、江田昌佑理事長は「茗溪会の更なる発展を図るために理事会内に、井口武雄副理事長を委員長としてキャンペーン委員会を発足させ『茗溪会拡充キャンペーン』の推進を図る」と述べました。

この『茗溪会拡充キャンペーン』は、新しい茗溪会が取り組む最も重要な施策であり、会員の皆様のご協力がなくては目標を達成することができません。そのため、会員の皆様の特段のご協力が必要な事業のいくつかについてご説明いたします。

### 会費制度改正の趣旨

茗溪会にとって、会員の拡大は喫緊の課題です。そのため、新会員の確保のための施策として、第一回定時総会において会費制度を次のように改めました。

- ① 会員は、正会員、学生会員、賛助会員とする。
- ② 新会員の入会金は、徴収しない。
- ③ 会員は、次により会費を支払う。
  - ・正会員 年額3500円
  - ・学生会員 在学中無料
  - ・賛助会員 年額(一口)2000円
- ④ 卒業(大学院修了)後3年間、会費納入を猶予する。
- ⑤ 会員のうち、次の場合は、その後の会費納入義務が消滅する。
  - ・年度会費を35回分納入した方
  - ただし、学生会員が在学中に年額10000円を納入した場合は、35回分納入回数に算入する。
  - ・入会後5年以内に年度会費を25回分納入した方
  - 学生会員が右の④の猶予規定にかかわらず、25回分納入した場合を含む。

なお、この会費制度の改正により、平成24年度、平成25年度の新生、新卒業生の入会が増えました。





平成25年 (2013年)

# 舞見中暑假

<p>茗溪会北海道支部</p> <p>支部長 <b>沖野隼夫</b> (昭和41年卒体育学部体育学科)</p> <p>TEL 011-802-8760 (鶴野和憲方 北海道支部事務局)</p>	<p>一般財団法人 筑波学都資金財団 筑波大学学生宿舎管理事務所</p> <p>所長 <b>武井秀一</b> (昭和51年卒理学部化学科)</p> <p>〒305-0005 茨城県つくば市天久保二丁目1-1 TEL 029-858-0131</p>	<p>茗溪会 代議員 (葛飾)</p> <p>東京聖栄大学 <b>渡邊(草間) 悟</b> 理事・教授 (昭和56年卒筑二農) (昭和62年卒筑博農)</p> <p>〒124-8530 葛飾区西新小岩1-4-6 TEL 03-3692-0213 FAX 03-3692-0213</p>
<p>新宿茗溪会</p> <p>事務局 <b>浅井一郎</b> (昭和55年卒筑一文文)</p> <p>〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-28 TEL 03-5273-5851 asai1765@ybb.ne.jp</p>	<p>茗溪会 代議員</p> <p><b>中村穎司</b> (昭和35年卒文学部国文科)</p> <p>〒343-0825 越谷市大成町2-331-1 TEL 048-988-0338</p>	<p>三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)</p> <p>コールセンター コンタクトセンター室長 <b>橋爪明信</b> (昭和53年卒体育専門学群(ラグビー部))</p> <p>TEL 080-1106-3018 e-mail: falconanny@onyx.ocn.ne.jp</p>
<p>神奈川茗溪会</p> <p>会長 <b>清水進一</b> (昭和43年卒 教大教) 事務局長 <b>矢野正人</b> (昭和53年卒 修院農)</p> <p>(会長自宅) 〒254-0075 神奈川県平塚市中原1-25-24 TEL 0463-31-3350</p>	<p>大阪茗溪会</p> <p>新会長 <b>松本秀範</b> (昭和53年 修士林卒) 森ノ宮医療大学 広報室参事 〒559-8611 大阪市住之江区南港北1-26-16</p> <p>新理事長 <b>岡村多加志</b> (昭和55年 筑一群自然卒) 大阪府立久米田高等学校 校長 〒596-0802 大阪岸和田市額原町1100</p>	<p>茗溪会広島支部</p> <p>支部長 <b>山成宣彦</b> (昭和40年卒教大健康)</p> <p>(事務局) 広島大学附属高校内 大辻 明 (昭和47年卒 教大体) TEL 082-251-2998</p>
<p>茗溪会 理事長</p> <p><b>江田昌佑</b> (昭和30年卒東京教育大学体育学部)</p> <p>事務局 〒112-0012 文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>茗溪会 副理事長</p> <p><b>井口武雄</b> (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険(株) (シニアアドバイザー)</p> <p>〒104-8253 東京都中央区新川2-27-2 TEL 03-3297-1111</p>	<p>茗溪会 副理事長</p> <p><b>西川 潔</b> 筑波大学名誉教授 (昭和44年教大構成 昭和40年院修美)</p> <p>〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail: q.nishikawa@gmail.com</p>
<p>一般社団法人 茗溪会</p> <p>常務理事 事務局長 <b>田中正造</b> (昭和36年卒教大健)</p> <p>事務局 〒112-0012 文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136</p>	<p>茗溪会 理事</p> <p>筑波大学数理解 物質系教授 <b>新井達郎</b> (昭和56年博士課程化学研究科修了)</p> <p>TEL 029-853-4315 arai@chem.tsukuba.ac.jp</p>	<p>国立大学法人筑波大学 副学長・理事 (教育担当)</p> <p>教育学博士 <b>阿江通良</b> (昭和48年教大体育)</p> <p>〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 TEL 029-853-2010 FAX 029-853-6310 e-mail: ac@taiiku.tsukuba.ac.jp</p>

## 支部への活動支援の改善内容

茗溪会が同窓会としての活動を活性化させていくためには、単位組織(地域・職域の支部)等の活性化が欠かせません。支部の「会員拡大活動」や「独自事業の積極的展開」を支援するために、支部あての会費還元を次のように改善することといたしました。

**還元金額** = (年会費規定金額 × 0.1) × 支部所属納入者数

この施策は、支部が会員拡大を図れば図るほど、還元金額が大きくなり、支部独自の事業も多彩に実施できるようになる仕組みになっています。

各支部に置かれましたは、まだ会員になっていない同窓生の掘り起しを図り、会員の拡大に努められますようお願いいたします。

## 「茗溪フェロー」の創設

この制度は、すでに会費を完納した会員の皆様に「茗溪フェロー」になっていただいで寄付を仰ぎ、今後も茗溪会の運営に寄与していただくことをお願いするものです。

「世代をつなぐ事業」として、次世代を担う学生・大学院生の研究活動、サークル活動、社会貢献活動への助成金等に使用させていただきます。

## 季刊誌「茗溪」(正月号、夏号)での誌上名刺交換(名刺広告)のねらい

季刊誌「茗溪」に「名刺広告」のページを設けたねらいは、会員の皆様に「名刺広告」という形で、経費的支援をいたたくとともに、今後、このページを、「単位組織(支部など)の活動報告」「会員相互の情報交換」「大学時代の専攻やサークルの連絡」などにお使いいただける「同窓生のコミュニケーションの広場」にしていきたいという願いがあるからです。

なお、上記各項の内容については、数次の理事会において協議し、議決した内容を基に記したものです。

# 平成24年度決算報告

## 貸借対照表

平成25年3月31日現在

単位千円

<b>資産の部</b>	
<b>I 流動資産</b>	
現金	124
振替貯金	23,416
当座・普通預金	223,971
未収金	445
前払費用	197
流動資産合計	248,154
<b>II 固定資産</b>	
特定資産	
満期共済金引当預金	40,250
退職給付引当預金	4,916
修繕積立引当預金	3,000
保証金引当特定預金	159,003
特定資産合計	207,170
その他固定資産	
土地	314,775
建物	735,669
構築物	6,606
機械装置	3,091
什器備品	1,632
定期預金	30,816
通常貯金	52,666
定額貯金	10,000
その他固定資産合計	1,155,258
固定資産合計	1,362,428
<b>資産合計</b>	<b>1,610,583</b>
<b>負債の部</b>	
<b>I 流動負債</b>	
預り金	471
前受金	19,695
未払金	624
流動負債合計	20,790
<b>II 固定負債</b>	
保証金	1,400,000
長期借入金	55,366
満期共済金引当金	40,250
退職給付引当金	4,916
修繕積立引当金	3,000
固定負債合計	1,503,533
負債合計	1,524,323
<b>一般正味財産の部</b>	
一般正味財産	86,260
(うち当期増減額)	2,589
正味財産合計	86,260
<b>負債および正味財産合計</b>	<b>1,610,583</b>

## 正味財産増減計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

単位千円

I 一般正味財産増減	(H25年)	(増 減)
1 経常増減の部		
1 経常収益		
① 会費収入	38,575	576
② 地代収入	58,900	0
③ 委託料収入	35,214	1,710
④ 広告料収入	3,215	390
⑤ 寄付金収入	54	8
⑥ 雑収入	1,398	-284
⑦ 満期共済金引当預金 取崩収入	2,050	1,100
⑧ 退職給付引当金 取崩収入	12,686	12,666
経常収益計	152,093	16,186
2 経常費用		
① 事業費	92,096	1,282
② 管理費	33,639	8,251
経常費用計	125,736	9,533
当期経常増減額	26,356	6,652
2 経常外増減の部		
1 経常外収益		
① 保証金引当特定預金 増加額	33,000	32,999
経常外収益計	33,000	32,999
2 経常外費用		
① 減価償却費	19,422	-325
② 退職給付引当金繰入	1,345	215
③ 保証金引当特定預金 繰入	33,000	33,000
④ 修繕目的積立金繰入	3,000	3,000
経常外費用計	56,767	35,889
当期経常外増減額	-23,766	-2,889
当期一般正味財産 増減額	2,589	3,762
一般正味財産期首残高	83,670	-1,172
一般正味財産期末残高	86,260	2,589
<b>II 正味財産3月末残高</b>	<b>86,260</b>	<b>2,589</b>

## 収支計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

単位千円

<b>I 事業活動収支の部</b>	
1 事業活動収入	
① 会費収入	38,575
② 地代収入	58,900
③ 委託料収入	35,214
④ 広告料収入	3,215
⑤ 寄付金収入	54
⑥ 雑収入	1,398
⑦ 満期共済金引当 預金取崩収入	2,050
⑧ 退職給付引当預金 取崩収入	12,686
事業活動収入計	152,093
2 事業活動支出	
① 事業費支出	92,096
1 給料手当	21,839
2 助成金	10,684
3 通信運搬	6,809
4 印刷製本	6,206
5 租税公課	32,445
6 修繕	2,719
7 その他	11,395
② 管理費支出	33,639
事業活動支出計	125,736
事業活動収支差額	26,357
<b>II 投資活動収支の部</b>	
① 投資活動収入	0
② 投資活動支出	37,345
1 退職給付 引当預金支出	1,345
2 保証金返済 引当預金支出	33,000
3 修繕目的 積立預金	3,000
投資活動収支差額	-37,345
<b>III 財務活動収支</b>	
1 財務活動収入	0
2 財務活動支出	16,500
財務活動収支差額	-16,500
<b>IV 予備費</b>	0
当期収支差額	-28,788
前期繰越収支差額	256,153
次期繰越収支差額	227,365



# 平成25年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

## 1. 事業計画のねらい

- (1) 本年度は一般社団法人への移行後2年目にあたり、定款の変更、新組織体制のもと事業を円滑に進めるための計画を実施する。
- (2) 公益目的支出計画に基づいて事業の推進を図る。
- (3) 財務審議会答申(平成24年2月24日)における財務状況の検証と新法人移行後の見通しをもって事業を展開する。

## 2. 事業の目的(定款第3条)

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資することを目的とする。

## 3. 事業の内容(定款第4条による)

- (1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
  - ① 茗溪会拡充キャンペーンの実行
  - ② ホームページのリニューアルによる交流促進
  - ③ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
  - ① 季刊誌『茗溪』の発行 年4回
- (3) 研修会、講演会、公開講座等公衆の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
  - ① 公開講座の実施
  - ② 地域・職域の単位組織主催による公開講座への助成
- (4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
  - ① 顕彰事業(社会貢献活動功労者、筑波大学大学院生、筑波大学芸術関係)
  - ② 学生諸活動への助成事業
- (5) 財産の管理・運営に関する事業
- (6) 教育の振興、普及活動に資する事業
  - ① 筑波大学就職ガイダンス
  - ② 教職受験対策研修会
  - ③ 茗溪筑波グランドフェスティバル
- (7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
- (8) 前項の事業は、全国において行うものとする。

## 平成25年度予算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

単位千円

科 目	予算額(案)			
	公益目的 支出会計	地代会計	法人会計	
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1 事業活動収入				
① 会費収入	39,591			39,591
② 地代収入	58,900	58,900		
③ 委託料収入	32,930			32,930
④ 広告料収入	5,130			5,130
⑤ 寄付金収入	100			100
⑥ 雑収入	1,469			1,469
⑦ 満期共済金引当預金 取崩収入	2,000			2,000
⑧ 退職給付引当預金 取崩収入	1,000			1,000
事業活動収入計	141,120	0	58,900	82,220
2 事業活動支出				
① 事業費支出	95,703	19,593	18,860	57,250
1 給料手当	20,920	12,460	4,360	4,100
2 助成金	13,133	7,133		6,000
3 通信運搬	6,850			6,850
4 印刷製本	6,000			6,000
5 租税公課	33,000		14,500	18,500
6 修繕	3,000			3,000
7 その他	12,800			12,800
② 管理費支出	22,738	2,373	1,000	19,365
事業活動支出計	118,441	21,966	19,860	76,615
事業活動収支差額	22,679	-21,966	39,040	5,605
<b>II 投資活動収支の部</b>				
① 投資活動収入	0	0	0	0
② 投資活動支出	37,000	0	33,000	4,000
1 退職給付引当 預金支出	1,000			1,000
2 保証金返済 引当預金支出	33,000		33,000	
3 修繕目的 積立預金	3,000			3,000
投資活動収支差額	-37,000	0	-33,000	-4,000
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1 財務活動収入	0	0	0	0
2 財務活動支出	19,100	0	19,100	0
財務活動収支差額	-19,100	0	-19,100	0
<b>IV 予備費</b>	2,000	0	0	2,000
当期収支差額	-35,421	-21,966	-13,060	-395
前期繰越収支差額	227,365			
次期繰越収支差額	191,944			

公開講座

# 『筑波大学ラグビーの軌跡』

～講演と企画展の開催～

[会期]

第1期 平成25(2013)年4月20日(土)～4月30日(火)

第2期 // 5月11日(土)～6月2日(日)

自律した人間力を養うために



今年1月、筑波大学ラグビー部は全国大学選手権で優勝は逃したものの、国立大学初の準優勝という栄誉に輝きました。筑波大学の前身である東京高等師範学校にラグビークラブが誕生して88年目の快挙でした(本誌春号で既報)。

そこで、この喜びを記念して、茗溪会と筑波大学は、公開講座として「筑波大学ラグビーの歴史と筑波大学準優勝までの軌跡をたどる講演と企画展」を、東京茗荷谷の茗溪会館で開催いたしました。

## 第一期の開幕

第一期の初日の4月20日、会場の茗溪会館に大勢の関係者が集まり、オープニングセレモニーと講演が行われました。

オープニングセレモニーでは、はじめに茗溪会の江田昌佑理事長の開会挨拶、筑波大学の永田恭介学長のご挨拶があり、引き続き、筑波大学の永田恭介学長、東照雄副学長、真田久体育専門学群長、茗溪学園の中村晃三事務局長、そして茗溪会の江田昌佑理事長の5人の方々によるテープカットがありました。

また、オープニングセレモニーの後、筑波大学教授・体育系長でラグビー部部長の中川昭さんと筑波大学講師でラグビー部監督の古川拓生さんに「筑波大学ラグビー部のこれまでと今から」というタイトルで、お話をさせていただきました。

### (中川 昭さんの講演要旨)

筑波大学ラグビー部は大学の変遷の中で様々な困難を乗り越えてきました。特に東京教育大学が筑波大学に変わる時は、大学の名称が変わるだけでなく制度も大きく変わるという大変な苦労がありました。こういう大きな変化の時には、ともすれば伝統(組織が大切にしてきたもの)が壊されてしまうことが多いのですが、筑波大学ラグビー部では、むしろこの変遷があったからこそ、東京高等師範のころから大切にしてきた伝統を強く意識し、継承してきました。

### 筑波大学ラグビー部が大切にしてきた伝統とは何か

一つ目は「指導者養成の使命を果たす」ことです。私たちはいつも、筑波大学のラグビー部は指導者を養成するところであるということを強く意識してきました





し、外部の人も筑波大学は指導者を養成するところだという目で見ています。そのため、私たちは「ラグビー精神を重視する」という東京高等師範以来の若狭ラグビーの伝統をしっかりと守ってきたのです。

二つ目は「学生の自主性、主体性を尊重する」ことです。

なぜ自主性、主体性を尊重するかというと、『自律した人間力の育成』のためです。そのためには、選手一人ひとりに一定の責任を持たせて、自らの意志で何事にも取り組める環境をつくってやる必要があります。監督の号令のもと、上意下達でやっていくような環境では人間力の育成はおぼつきません。

三つ目は「文武両道、文武合一を追求する」ことです。

「文武合一」というのは、元筑波大学のハンドボール部監督の大西先生の言葉です。筑波大学の体育専門学群ではラグビーについても研究していますが「研究したことを実践の場でやってみる、そして実践の場に出てきた問題を研究する」というように、研究と実践が合一しなければならぬという考え方です。

だから筑波大学のラグビー部は、普段やっている活動がいつも研究と結びついているというところに大きな特徴があります。

四つ目は「大学の授業優先」です。

筑波大学では、まず「よき学生であれ」という考えでやってきていますので、練習も放課後というより夜になってからやることが多い。しかし、授業優先といっても日本代表に選ばれるような選手は合宿に次ぐ合宿の連続で、授業に出られないために単位が取れないということもあって、学生たちの新たな悩みになっています。

五つ目は「進取の気性を持つ」ということです。

筑波大学では、1979年から2年間、ジム・グリーンウッドという外国人の著名なコーチを招聘しました。彼が教えてくれたことは「勝つためにはなにをすべきかをいつも考え、勇気をもって新しいことにチャレンジシ

ていく」ということでした。これが筑波大学ラグビー部のポリシーとなり、新しい伝統になっています。

### 「ジャイアントキラー筑波」からの脱皮

これまでの筑波大学ラグビー部は、「ジャイアントキラー」という評をもらうことがよくありました。筑波大学は、しばしば下馬評を覆すような勝利を挙げてきたからです。

例えば、前年のディフェンディングチャンピオンの大東文化大学に勝った。50連勝していた明治大学にも勝った。関西の雄の同志社大学にも勝った。しかし、次の試合では負けてしまうというこの繰り返しでした。だからジャイアントキラーからの脱皮が私たちの課題でもありました。

### ついに正月の国立競技場のピッチに立つ

正月の国立競技場というのは、大学ラグビーにとつて特別の場所です。ここで試合をするということは大きなステータスになります。筑波大学ラグビー部の歴史を振り返ってみると、正月の国立には7度挑戦しましたが、いつも跳ね返されてきました。

しかし昨年1月、筑波大学ラグビー部は、ついに正月の国立の壁を突破し、今年は決勝戦の舞台に立つことができました。

では、ここからは古川監督に、筑波大学の前に立ちほだかかっていた壁をどうやって乗り越えていったのかを話してもらいます。



(古川拓生さんの講演要旨)

### なぜ筑波大学ラグビー部は強くなれたか

それは特別なことではなく、「いい選手がいて、いい環境があって、いい練習ができています」ということが、いい結果に結びついているのだと思います。

#### 一・筑波大学ラグビー部の選手たち

いま筑波大学ラグビー部には日本代表に選ばれるような選手が在籍しています。昨年度のチームでは、15人制日本代表が2名、代表候補が2名、ユースレベルの日本代表は候補を含めて16名、さらに7人制日本代表も2名が名を連ねるという状況です。

これらの選手の中には、推薦で入ってきた学生だけでなく、一般入試で入ってきた学生もいます。さらには「どうしても筑波でラグビーを」と言って、浪人して入試を突破してきた学生もいます。実際、部員の4割弱を浪人生が占めています。

浪人生は一年間のブランクから、思うようなプレーができるのは夏合宿を過ぎた9月あたりからとなります。ただ私は、このことが筑波大学ラグビー部にとつても、学生にとつてもマイナスとは考えていません。難しい入試を突破するには、学業で頑張らなければなりませんし、浪人するということになれば、「なぜ自分は筑波に行きたいのか」「なぜ自分はラグビーをするのか」ということを真剣に考えたうえで、相当の覚悟をもって筑波大学ラグビー部を目指してくるからです。この様な学生は、学年が上がるに連れて、選手としても人間としても素晴らしい成長を遂げています。

#### 二・筑波大学ラグビー部を取り巻く環境

##### ①グラウンドが整備された

筑波大学のグラウンドは、5年前まで土のグラウンドでした。雨が降ると練習ができない、晴れていても埃がたつので転げまわることはできない、という状態でした。

それが平成21年4月に、天然芝と一部人工芝のグラウンドに改修していただき、コンタクトプレーなどの練習を計画的にやれるようになりました。

## ② 大学院生がコーチになる

筑波大学ラグビー部は、大学院生がコーチとなり学生をサポートする体制をとっています。これは他の大学にはない筑波大学の特徴です。そして、この体制は、将来指導者になっていく大学院生にとっても、本当の意味での実習の場となっています。

## ③ ラグビーに関する最先端の情報を共有できる

15人制、U20、7人制のいずれの日本代表チームも、アナリストはすべて筑波大学の卒業生が務めています。日本代表チームのアナリストは最先端の情報を保持していますので、彼らと情報を共有しながら、戦術や練習方法の研究と実践に生かしています。

## 三・練習では発想の転換をした

私は、監督になった時、過去の戦績を分析し、どうしたら欠点を少なくできるか考え、「タックルをいかに決めるか」とか「ディフェンスをどうやって高めていくか」ということに腐心していました。しかし、ある時、スクラムやタックルがどんなに強くても、守りの時間が長くなると、どこかでほころびが出ることに気がきました。そこで、攻めの時間、ボールを持つ時間を増やそうと考えました。

ちょうどその頃、グラウンドの改修によってコンタクトプレーのスキルアップにも取り組めるようになりましたので、攻めの時間も増加し、連続トライによる攻撃もできるようになりました。そして、この発想の転換は、これまでのチームづくりの柱としていた、組織ディフェンスのさらなる安定にもつながり、ディフェンスからトライをとっていくという現在の筑波のスタイルが確立されてきました。

## 筑波大学ラグビー部のこれから

大学日本一になるということは、学生にとっては大きなことかもしれませんが、誤解を恐れずに言えば、それは単なる4年間の区切りではない。大事なことは、ラグビーを通じて、自分を見つめ、その先の自分を考えるということだと思っています。

かつては、ラグビー部の卒業生の多くは教育界で指導的な立場で活躍していましたが、いまは教職や一般企業に就くことが難しくなったこともあって、社会人ラグビーに進む選手が増えています。しかし、筑波大学のラグビー部で活躍している選手たちは、皆、どのような場にあってもリーダーとして活躍できる人材ばかりです。そして、私たちの役割は、これからも筑波大学ラグビー部のよき伝統を継承し、ラグビー精神を備えたすぐれた人材を育てていくことではないかと思っています。

古川監督の講演の最中、日本代表に選ばれていた情報学群二年生の福岡堅樹君が、初めて代表デビューを果たし、トライを決めたという知らせが入って、会場は大きな拍手に包まれました。

## ❁ 企画展への来場者の声から

第一期が4月20日～30日、第二期が5月11日～6月2日まで開催された「筑波大学ラグビーの軌跡展」には、連日多くの見学者が訪れました。見学者の中で特に印象に残った方をご紹介します。

○4月25日 名方幸彦さん（文京区にあるラグビースクール BRS II 文京ラグビースクールの代表）

都内には小学生を対象にしたラグビースクールが25ほどあり、BRSは数年前に立ちあげたラグビースクールで、筑波大学附属小学校の児童が数多く参加しているとのこと。「最近ラグビー人口が減少気味なので、児童のころからラグビーに親しませるラグビースクールの数多く設立して、活動を続けていきたい。筑波大学ラグビー部の活躍は大いに刺激をうけています」と名方さんは話しておられました。

○4月26日 山田研也さん（筑波大学附属高校教諭）

附属高校のラグビー部の顧問として、筑波大学や茗溪学園の活躍を大変喜んでいるとのこと。附属高校ラグビー部は昨年は15人以上の部員がいましたが、3年生が卒業した現在、新入部員がなかなか集まらず、「今年は公

式戦に単独チームとして出場することが難しいので、近くの高校と合同チームを組んで参加することになりそうだ」と残念がっていました。

附属高校には毎年多くの筑波大学の学生が教育実習にやってきましたが、昨年ラグビー部で大活躍して、今年大学院に進学した山下昂選手（旭野高校出身 ポジションはセンター）もこれから教育実習にやってくるとのこと。「私が担当することになるので楽しみです」と話していました。

○5月12日 大川智弘さん・幸枝さん

展示会で筑波大学ラグビー部で一番大きな選手（右の写真 身長181cm・体重105kg）として垂れ幕で紹介されている大川創太郎選手（真和高校出身 ポジションはプロップ）のご両親。熱心に見学され、最後に「息子の垂れ幕をいただけませんか」と希望されたので、展示の責任者である守屋正彦理事に相談して企画展が終わったあとでお届けしました。

○5月16日 大久保久美子さん

都立小石川高校出身のご子息は高校時代からラグビーを始め、筑波大学情報学群に進学後も4年間ラグビー部に所属し、今年卒業して筑波地区のIT関係の会社に就職したとのこと。お母さんは「息子は体が大きいわけでもなく、足が特別早いわけでもなかったため、公式戦には一度も出なかったが、ラグビー部での4年間の生活が息子を大きく成長させてくれました」と話していました。





## 第二期の開幕

「筑波大学ラグビーの歴史と筑波大学準優勝までの軌跡をたどる講演と企画展」の第二期は、5月11日、茗溪会館2階ホール「茗溪の間」に参加者を迎えて、基調講演とパネルディスカッションが始まりました。

基調講演は、筑波大学ラグビー部監督や日本ラグビー協会理事として活躍され、現在は一般社団法人茗溪会の

### 基調講演

## 「変革への道のり」

(要旨)

### ラグビー部 部歌

作詩 工藤一三

正義の血潮に  
燃え立つ吾等  
蹴るや  
地を噛みて  
飛び跳ぶ英雄しさ  
望みを気高く  
地に立つ勇者  
茗溪の誉  
世に示すは今  
いざいざいざ  
筑波筑波ラグビー  
吾等の意気昂し

(この歌詞の中で、「筑波筑波ラグビー」のところは東京教育大学時代までは「文理文理ラグビー」と歌っていました。)  
註・文理＝東京高等師範学校と併設されていた東京文理科大学に所以する。

理事長を務める江田昌佑さんに、「変革への道のり」というタイトルでお話いただきました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、「7人制ラグビーがオリンピックの正式種目に決まったこと」や「ラグビー選手のプロ契約の動き」など、わが国のラグビーを取り巻く状況も大きく変わりつつある今日、「茗溪ラグビーに期待するもの」というテーマで、筑波大学名誉教授の伊與田康雄さんの司会で4人のパネリストの皆さんに話し合っていました。



講師  
江田昌佑さん  
茗溪会理事長

### 茗溪ラグビーの発祥

筑波大学のラグビー部には「部歌」があります。この歌をつくったのは、東京高等師範の体育科の卒業生で柔道家の工藤一三さんです。ラグーマンの魂を揺さぶるような素晴らしい歌詞で、私たちが仲間とこの部歌を歌うとき、いまでも心がときめきます。

工藤一三さんという人は、柔道家でしたが、草創期の頃からずっと茗溪ラグビーの面倒をみてくれていました。そして、草創期の茗溪ラグビーを語る時、忘れてはならない人にもう一人、岡本平太さんがいます。この方も東京高等師範の卒業生で柔道家ですが、アメリカ留学から戻った時にアメリカンフットボールを持ち帰ってききました。そしてそれがきっかけになって、ラグビーについても柔道の人たちが中心になって、文献をあさり辞書を片手に原書を翻訳し、一から実践をしながら、ラグビーを一步一步自分たちのものにしていったのです。

こうした草創期の先輩たちの努力が、今日の茗溪ラグビーの発展につながっているのですが、私はいまの学生の皆さんにも、ぜひこういう話を知ってほしいものです。

### 世界のラグビーの大変革

世界のラグビーの変革は英国で始まりました。1971年にイングランドラグビー協会の100年祭が行われましたが、この100年祭を開催するにあたって、若いラグーマンたちが、英国のラグビーの栄光を再び取り戻そうと改革に取り組んだのです。

その背景には、英国はラグビーの発祥の地ですが、ニュージーランドやオーストラリアそして南アフリカなどの、ラグビーでは後発の国々に後れをとり、勝てなくなっているという実態がありました。

1955年にブリティッシュ・ライオンズという全英の代表チームが南アフリカに遠征した時も勝てなかった。そのため、南ア遠征から帰ってから、若いラグーマンたちは自分たちのラグビーを改革しようと立ち上がりました。この時の遠征チームのキャプテンが、後に筑波大学が招聘したジム・グリーンウッドですが、彼は改革に向けた取り組みでも中心的な役割を果たしていました。彼らは「新しいラグビー理論の構築」「技術的な研究」

「ルールについての研究」「指導システムのあり方」などについて、グループをつくって長期にわたって研究し、頑迷固陋な長老たちを説得し、英国のラグビーを改革していききました。そして、この時の英国のラグビー改革がもとになり、「現代ラグビー」が構築され、世界に広がっていったのです。

もう一つ、最近の英国のラグビー改革の動きで強調しておきたいのは、子どものラグビーのあり方について真剣に取り組み始めたということです。

大人のモデルが子どもではありません。大人と子どもは体力も能力も違いますから、子どもには子どものラグビーが必要です。そのため英国では、子どものためのラグビーのあり方を研究し、指導書も作っているのです。

### わが国の小・中・高校生のラグビーへの対応

スポーツ医学やスポーツ心理学が発達し、わが国でも、子どもの成長に合わせたラグビーを考える必要があるということになり、私が責任者になって全国から20人の有

識者に集まってもらい研究をいたしました。  
そして、小学生期のラグビーは英国の方式が一番いい  
ということでもとまり、「9人制のミニラグビー」が採用  
されました。

中学生期のラグビーについては、指導者の中に自分の  
考え方や指導方法にこだわる方が多く、意識改革しても  
らうのに3年もかかりましたが、世界初の「12人制のジ  
ュニア・ラグビー」という方式を誕生させることができ  
ました。

高校生期のラグビーについては、国際的なルールがあ  
りますので、わが国もその方式でやっています。

### つくばのラグビー発祥

大学が移転した頃のつくばの地は何もない荒野のよう  
なところでした。将来は30万人の文化都市になるという  
構想はありましたが、当時は何もない。そこで、この地  
に生活を豊かにするようなスポーツ文化を築こうと皆で  
考え、お年寄りから子どもまで楽しめるラグビークラブ  
をつくることになりました。それでできたのが「ツクバ  
リアン」です。クラブの名前は、全英国の伝統あるラグ  
ビークラブの名称の「バーバリアン」をもじってつけま  
した。

つくばの地のラグビーで、もう一つ特筆しておきたい  
のは茗溪学園の校技がラグビーとしてスタートしたとい  
うことです。

茗溪学園は英国のパブリックスクールのような学校を  
めざしているということでしたので、それなら校技はラ  
グビーにしようということになりました。今では茗溪学  
園は全国でも有数の強豪校に育ち、自由奔放でユニーク  
なラグビーを展開して賞賛されています。昨年度は全国  
大会で3位になっています。

### 紳士は常にその立場で責務を果たせ

ラグビーの発祥地の英国でも、いまやアマチュアリズ  
ムの陰が薄くなってきています。しかし、140年にわたっ  
て世界のラグビーを先導してきた英国ですから、その理  
念の根底にはジェントルマンシップがあります。

それは、フランス語のノブリス・オブリージュと共通  
する考え方です。つまりこの言葉は「紳士は常にその立  
場での責務を果たさなければならぬ」という、人間と  
しての生き方を指し示しているのです。

わが国のラグビーを取り巻く環境は、これから時代と

ともに大きく変わっていくかもしれません。しかし、ラ  
グーマンはどんな環境にあっても練習や試合を通じて、  
ノブリス・オブリージュの精神を身につけていってほし  
い。

それを私の話のまとめの言葉としたいと思います。

## パネルディスカッション 「茗溪ラグビーに期待するもの」



### ❖パネリスト

中川 昭さん

(筑波大学ラグビー部部长)

辻 高志さん

(元 早稲田大学ラグビー部監督)

前田 嘉昭さん

(筑波大学ラグビー部OB会長)

田村 一博さん

(ラグビーマガジン編集長)

### ❖司 会

伊與田康雄さん

(筑波大学名誉教授)

### ❖助 言

江田 昌佑さん

(基調講演者)





**伊興田** まず、パネリストの皆さんは筑波大学のラグビーをどのように見ているかということから話を進めていきたいと思っています。

### 筑波大学ラグビー部の活躍を振り返る

**辻** 私は早稲田大学の監督をしていましたので、対戦相手として筑波大学のラグビーをどう見ていたかということについてお話ししたい。

筑波大学の印象は「とても勤勉なチームだな」ということです。教育者をめざしている人が多いという学校のカラーもあると思いますが、対戦する前に私たちのすべてを分析されているというように感じていました。しかもそういう分析が、一部の選手だけでなくチーム全体にいきわたって、早稲田の弱いところを一丸となって突いてくる、そういうチームだと見ていました。そのため、筑波はこう分析しているだろうから逆手をとってやろうということばかり考えて、自分たちのラグビーを忘れてしまうこともありました。(笑)

**中川** 辻さんのお話にお答えする形でお話してみたい。私たちのラグビーは、これまでどちらかというところ、強い相手に立ち向かうときの弱者の論理でやってきたところがあります。「どんな相手であっても必ず勝つチャンスがあるはずだ」「そのチャンスをつくるためにはどうしたらいいか」ということをいつも考え、そのために相手チームの分析に力を入れるというラグビー文化を継承してきています。

ですから、強くなり無敵になれば、筑波のラグビーも変わっていくだろうと思いますが、いまは、「どんなに体力に勝る強い相手であっても、勝つチャンスを見い出す、勝つチャンスを高めるために、相手チームを徹底分析する」という筑波ならではのラグビーを、大



事にしていきたいと思っています。  
**田村** 私はラグビーを取材しているスポーツジャーナリストとして、筑波大学ラグビー部についてお

話したい。ラグビーの強い大学は、例えば、早稲田だったら「播さぶり」、明治だったら「フォワード」、慶應だったら「タックル」というようなカラーが見えていたのですが、筑波の場合はそういうカラーが感じられなかった。ところが、選手の皆さんを取材すると、「筑波の伝統はディフェンスなんだ」という答えが返ってきました。

そして、「筑波の選手は体が大きくない。だから常にタックルから仕掛けていくという伝統もある」ということも教えられました。

私たちも他の大学とは違う筑波大学ラグビーのそういう特色をきちんと伝えていかなければならないと思っています。

もう一つ、最近、筑波大学に行きたいという有望な高校生が増えているということについても取材したのですが、その一番の理由は「寮がないから」ということでした。私たちはすぐ「寮をしたくないからではないか」と勘線してしまうのですが、皆さんの答えは、「寮をするために筑波に来たのではない。人間は一人で考える時間が必要だから、自分たちはそれを求めて筑波に来たんだ」というものでした。

また、去年のキャプテンの内田君も、「筑波大学のラグビー部の生活は普通の公立高校と同じで、部活動をしてから家に帰り、自分の部屋で勉強し、また翌日、授業が終わった後に部活動をするというのが普段の生活です。筑波が全国のトップを競っている姿に共感して筑波をめざす高校生が増えているのではないか」と話してくれました。

私たちはこのような筑波大学ラグビー部のあり方について、これから取り上げていこうと考えています。  
**前田** 筑波大学ラグビー部のOB会の会長としては、



昨年度の準優勝、その前の年度のベスト4という活躍を本当に嬉しく思っています。

私は長年、高校ラグビーに関わってきましたが、田村さんの話にもありましたように、いまほど「筑波大学に入りた。筑波大学でラグビーをやりたい」という高校生が多くなっている時代はありませんでした。私も、筑波大学ラグビー部の活躍とラグビーに取り組む姿勢に多くの高校生が魅力を感じている結果だと喜んでいきます。

それからもう一つ、筑波大学ラグビー部がこれだけ活躍できるようになった背景には、大学の強いバックアップがあったことも忘れてはならないだろうと思っています。

例えば、かつては土のグラウンドで練習していましたが、いまは天然芝と一部人工芝のグラウンドで練習できるようになりました。このようないい環境が用意されたということもチームが強くなれた要因の一つだろうと見ています。

### 7人制ラグビーがオリンピックの正式種目になった

**伊興田** 次に、7人制のラグビーが2016年のリオデジャネイロで開かれるオリンピックの正式種目になったという点について、この動きをどう受けとめたいのでしょうか。

過去には15人制のラグビーが、1900年のパリ大会、1908年のロンドン大会、1920年のアントワープ大会、そして1924年のパリ大会と4度オリンピックの種目になりましたが、その後はすっかり途絶えていて、今度は7人制のラグビーがオリンピックの正式種目選ばれました。

そのいきさつについては、取材をされた田村さんから裏話を含めてお話しください。



**田村** オリンピック種目になるためには、男女両方ができる競技であること、できるだけ多くの国や地域でやっているスポーツであるということが条件になります。15人制ラグビーですと世界でも強いところは決まっています、メダルの行方は見えてしましますが、7人制ラグビーですとフィジーやサモアのような他のスポーツは弱い国でもメダルの可能性が出てくるということもあり、ラグビーを世界的なスポーツにしたいというIRB（国際ラグビー評議会）の思惑もあって、7人制ラグビーがオリンピックの正式種目になったと聞いています。

それから、7人制ラグビーは試合時間が短いので、1日に何試合もできますから、限られた期間の中で結果が出せるということも、オリンピック種目に決まった大きな理由だろうと見ています。

いまアジアで問題になっているのは、7人制ラグビーだけに特化して選手強化しようという国が出てきていることです。ただ、IRBとしては7人制だけを強化するのはよくないので15人制ラグビーも強化してほしいと伝えているようですが、そうやってはいないのが現状です。

**中川** 私は、わが国の場合、7人制ラグビーが盛んになることはとてもいいことだと考えています。いま多くの高校では15人の選手がなかなか集められないという状況にあり、それが7人でチームを編成できて、数多くの高校生がラグビーをやるようになれば、それだけでもラグビーの普及に大きなメリットになると思うからです。

それと、7人制のラグビーは一人あたりのスペースが広いので、選手の競技力をアップさせるには15人制ラグビーよりも可能性が高い。そういう意味では、高校生や大学生のレベルで7人制がもっと盛んになってほしいと考えています。

いま、大学レベルでも7人制ラグビーの大会が

増えてきて、私たちも7人制ラグビーに力を入れていますが、その努力の甲斐もあって筑波大学は東日本の大会で、去年、今年と2連覇いたしました。

7人制ラグビーがもっと盛んになれば、ラグビーをわが国の人気スポーツにしていく大きなチャンスになるのではないのでしょうか。

**辻**

わが国の7人制ラグビーは、世界のトップグループとは大きな差がありますが、その原因の一つに人材の確保に苦しんでいるという実態があります。

私はいまトップリーグのNECでコーチをしています。私にはナンバーワンの選手を7人制の専門の選手として出してくださいと言われてもなかなかイエスとは言えない。

ラグビーはどうしても15人制あつての7人制という印象が強く、15人制のチーム編成を第一に考えてしまうからです。

ですから、2016年のリオデジャネイロのオリンピックで日本が活躍できるかどうかは、人材の確保が鍵になるだろうと思います。

**前田**

7人制ラグビーと15人制ラグビーの関係は、辻さんの話にもありましたように、わが国ではどうしても15人制が中心で7人制はどちらかというとイベント的に受けとめられています。そのため高校での普及も15人制を中心に進めているのですが、20年前は所属チームの95パーセントが15人制の大会に参加できていたのに最近では60パーセントくらいしか15人制のチームを編成できないような状態にまで落ち込んでいます。

そのため、来年度は90パーセント以上の高校が、母校のユニフォームを着て参加できるような形にして、47都道府県の代表各1チームともう1校加えて16チームずつ3つのグループでリーグ戦と決勝トーナメントをやつて、高校ラグビーの活性化を図ろうと計画しています。

**江田**

ただ、女子の方は普及が難しい状況にあります。わが国でも7人制のラグビーは戦前から盛んに行われていたという記録があります。昭和に入り、戦前戦後を通じてわが国のラグビーの普及に大きな貢献を

した香山蕃さんという方が、セブンアサイド（Sevens）の7人制ラグビーを15人制ラグビーの補強競技としてシーズンオフにやることを強く推奨していました。先ほど中川さんから、筑波大学でも7人制ラグビーに力を入れているという話がありました。7人制ラグビーは個人のスキルを高めるためには極めて有効な手段です。15人制と同じスペースでやりますから、脚力も伸ばさなければいけませんし、判断能力もセンスも向上させることができるのです。

オリンピックとワールドカップのために、15人制と7人制を分けて、戦略的に人材を育てていくという考え方もあるかもしれませんが、私は、ラグビーの基本的なスキルを高めるためには、7人制は悪くはないと考えています。

**プロ化の動きの中で、  
大学ラグビーをどう考えるか**

**伊興田** わが国でも、社会人ラグビーでは外国人選手だけでなく日本人選手の中にもプロ契約する選手が生まれています。

このようなプロ化の動きを私たちはどう受けとめたらいのでしょうか。

**辻** 世界のラグビーはプロ化が進んでいて、わが国でもそれを追いかけるような形で10年ほど前からプロ契約する日本人選手が増えてきていました。でも最近では少し落ちてきていて、ピークの時と比べると日本人選手のプロ化は半分以下に減ってきています。

日本のラグビーは企業スポーツとして育ち、支えられてきました。実際に企業でラグビーをやっている人間にとつては、企業の社員として、企業の選手として戦うことに意義があると考えています。企業にとつて、強いラグビーチームを持つということは社会的なステータスになりますし、また一緒に仕事をしている仲間が選手として頑張っている姿を会社全体で応援することによって社員の志気も高めていくということもできるからです。





それから、私は最近まで早稲田の監督をしていましたが、これも企業からの派遣の形をとっていました。

学生の中には、プロになりたいという人もいますが、プロとして成功した日本人選手はまだいませんし、企業のバックアップがあつて成り立っているのが国のラグビーの現状を見ると学生にはプロになることを奨めようとは考えていません。

中川 いま辻さんから、企業に支えられてわが国のラグビーは成り立っているという話がありました。私は、企業スポーツというのは問題点もありますが、わが国のスポーツの良いあり方ではないかと考えています。実は、外国人と日本のスポーツのあり方について話をした時、「選手生活が終わった後も企業で働ける。こんな素晴らしいシステムはない」と驚かれ、羨ましがられました。

ところで、プロ化の問題で一つ考えておかなければならないのは、学生が日本代表に選ばれた場合のあり方です。日本代表の強化選手になると、プロ化というか、日本協会から拘束されて強化される形になります。世界で戦えるチームをつくっていくためには、まずまずそういう方向になっていかざるをえないのかもしれないませんが、そこに大学生が入ったらどうなるかということが、私たちの大学では課題になってきます。

筑波大学では、今年2人の学生が日本代表として呼ばれているのですが、彼らは4月、5月、6月はずつと授業に出ることができない。その3か月分の単位が取れないと留年することも覚悟しなければなりません。いい選手であれば、次の年にも同じ状況になります。ですから、大学生が代表選手の中に入っていく時の学業との関係をどうしていくのかということが大きな課題になってきているのです。

その解決策として、大学に目をつぶってもらって単

位を与えてもらうというやり方もあります。

しかし、そういうやり方を続けていっていいのか、それともきちっとしたシステムをつくって大学生もプロ化の流れに入れていくのかがこれから問われていくことになるだろうと思います。

前田 U18の大会には高校生も出場しますが、高校生の場合も、わが国の強化システムと学業との両立はなかなか相いれない状況にあります。

わが国でも、強い代表チームをつくるためには、学業と強化のあり方について真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか。

田村 2007年にフランスでワールドカップがあつた年に、フランスのメディアが「日本のラグビーを紹介したいので日本のラグビーのシステムを教えてください」と言ってきたので、企業のチームが中心になっているトップリーグの話をしたところ、「それはプロではないか」と指摘されました。

「ラグビーで就職し、ラグビーをやつて、選手としての生活が終わると社員として残れる。これは海外から見たら一番いい保障のあるプロだよ」というのです。たしかにフランスのメディアがいうように、日本のシステムは世界でも最も良い形のプロ化であるかもしれない。

先程、中川さんもこのことにふれていましたが、日本の選手はオフの時にはしっかりと仕事をしますし、精神的にはアマチュアであるという言い方もできるだろうと思います。

ただ世界のラグビーは、1995年にIRBが、「プレーに対してお金をもらってもいい」と決めた時からプロ化が進んでいて、昔のように別の職業を持つ選手はほとんどいなくなっています。その代り、選手をやめた後のステージを考えて、そのための能力を開発したり、学校へ行つて資格を取つたりしているようです。これは文化のちがいでいえるかもしれませんが、中川さんや前田さんの話にあつた「学業との両立」の問題を考える時の一つのヒントになるのではないのでしょうか。



伊與田 ラグビーというスポーツのプロ化が進んでいく中で、「大学ラグビーのあり方」については、どのように考えていったらいいのでしょうか。

中川 このことを考える時に、よく引き合いに出されるのはアメリカの大学スポーツです。アメリカの大学スポーツはNCAA（全米大学競技スポーツ協会）という組織が仕切つていますが、NCAAの基本姿勢は、まさに文武両道です。例えば、練習も週に何時



間までと決められていますし、成績も何単位以上とつていないと試合に出られないということも決められています。しかも、こうした決まりをちゃんとまもっているかどうかをチェックする体制もあるのです。

しかし日本では、「授業に出られない時間帯に練習をする」「ラグビーのためだけに日本に来ていて外国人の選手がいる」「多額の金銭的援助を受けている選手がいる」というようなプロ的なチームがあるということも事実です。

どこかで、当事者自身が立ち止まって、「大学ラグビーはどこをめざしていくのか」ということを議論し、これからの方向を考えていかないと、大学スポーツの理念が失われてしまうのではないかと危惧しています。だから私も筑波大学では、そこを見失わないように「大学スポーツの王道をめざそう」ということを念頭に置いてラグビーに取り組んでいます。

辻 私も中川さんとまったく同じ考えで、「大学スポーツは教育の場である」と考えています。早稲田の監督をしていた時も、ラグビーを教えているよりも教育することに多くの時間を費やしていました。



私は、早稲田の元監督で、日本のラグビーの発展に大きな足跡を残された大西鉄之佑さんの意思を強く受け止めている一人ですが、「ラグビーは人格と人格を競い合うスポーツである。ラグビーが強いだけではだめで、人格を磨きなさい」と教えられました。

中川さんの話にあつたように、プロ的なチームが増えているいま、「大学ラグビーは教育の場であり人格を磨く場である」という大西さんの言葉は、ますます重みを増しているように感じています。

### 茗溪ラグビーに期待するもの

伊興田 これまで、わが国のラグビーもさまざまな課題を抱えていることを話し合ってきました。

では、最後に、「茗溪ラグビーに何を期待するか」「茗溪ラグビーになにを求めらるか」ということを各パネリストの皆さんにおうかがいして、このパネルディスカッションを閉じたいと思います。

中川 私は、茗溪ラグビーの伝統を守り、新しい時代の茗溪ラグビーを築いていかなければならない当事者ですので決意表明のような形になってしまいますが、先ほど述べた「大学ラグビーの王道をめざす」という姿

勢を貫きたいと考えています。

ただ、大学ラグビーの大会はチャンピオンシップですから、王道をめざすと同時に、強いチームをめざすということも重要なことだと思っています。

それともう一つ、茗溪学園と一緒にあって、日本のラグビーに新しい風を巻き起こすような新しいことに常にチャレンジしていきたいと考えています。

そして、こういうチャレンジしていく姿勢が外から見えるようにして、高校ラグビーで、そして大学ラグビーで、存在感のあるチームとして輝き続けることができれば、とても素晴らしいことだと思います。

辻 私は茗溪学園の出身ですから、茗溪ラグビーに育てられた一人です。茗溪ラグビーというのは、ひらめきを大切にされた自由奔放なところに特徴があり、私はそういうラグビーが大好きで、いまでも「茗溪学園のラグビーは変わっているよね」といわれるとうれしくなり、また誇らしい気持ちになります。

いま、茗溪学園の卒業生の中からも、筑波大学に選んで活躍している選手も多くなっていますが、実は私も、本当は筑波大学に行きたかった。でも、きょう、私の隣に座っている



当時の監督の中川さんに「あなたはいい」と言われたので、早稲田に行くことになってしまいました。(爆笑)

そのようなこともありましたが、私は茗溪ラグビーが大好きで、個人的にも茗溪ラグビーを応援していますので、筑波大学にはぜひ日本一をとってほしいと思っています。(拍手)



前田 筑波大学ラグビーの大きな役割に、人材の育

成”があります。最近では、生涯スポーツ社会の構築が求められています。最近では、わが国では、欧米のような、生涯を通じてスポーツを楽しめる環境がまだ少ない。子どもからお年寄りまで、そして、元気な時だけでなく体力が衰えてからもスポーツを楽しむことのできる生涯スポーツ社会づくりのリーダーになる人材を育ててほしいと思っています。

田村 中川さんの決意表明にもありましたが、筑波大学にはこれからも新しいことにどんどん挑戦してもらいたいと思います。

例えば、7人制ラグビーはオリンピックの正式種目にはなりませんが、戦術の研究も技術の研究も、また練習方法や指導システムなどについての研究も、ニュージーランドや南アフリカなどの一部の国を除いてほとんどできていないのが実状です。

筑波大学が先頭にたつて、7人制ラグビーについての「実践と結びついた理論」を構築して行ってほしいと願っています。

### 「師魂理才」を身につけた人材を！

江田 茗溪ラグビーの一番の役割は人材の育成です。

茗溪ラグビー88年の歴史を振り返ってみても、多くの人材を育て世に送り出してきました。

筑波大学の永田恭介新学長が、就任にあたって、筑波大学の人材育成のメインは「師魂理才」だと言っています。「師魂理才」とは「親や先生のように人に接する心や人をまとめる力をもち、かつ合理的に問題を解決する才能をもつ」ということを意味していますが、茗溪ラグビーのめざす方向は、そういう「師魂理才」を身につけた人材を育てていくことではないでしょうか。

この日、午後2時から始まった「基調講演」と「パネルディスカッション」は、予定された時間を大幅に超えて午後4時20分に、参加された皆さんの盛大な拍手で幕を閉じることができました。



# 「東京都茗溪会」について

組織委員会委員長・理事 高野

力

東京都内の茗溪会員が平成25年3月31日現在で、登録会員数13,604名、うち正会員は4,576名という大きな地域で、23区をはじめとする28の地域支部と三つの職域支部があります。

支部の会員はおもに、地域に職場のある方で構成されており、その結果、活動の中心となつてはいる教員の方々の異動が転勤に伴い、頻繁であること、入会時、本社で登録されている企業会員を多く抱えていること、といった特色があります。

また、教員の方々は、支部を横断する形で、校長職の会、茗中会のように、階層別の有力な会をいくつか伝統的に継続しております。

いつでも気楽に会合を持てるような細分化された地域の支部と広域の階層ごとの組み合わせは、大きな組織の在り方としては、非常に良く出来上がったものだと、先輩がたの慧眼に感服するものです。

ただ、勤務時間内での活動が制限されていたり、構成する人数が少なくなつてはいる現在では、組織が大きいから故の問題が生じているのではと感じます。

そこで、伝統を繋いでいる現在の支部体制はそのままに、筑波大学卒業生が中心になつて、「世話人」となり、事務作業には本部事務局が協力し、「東京都茗溪会」を発足させ、新入会員からフェロー会員までを広く一堂に会せるような機会を造ることと致しました。

現在、都内の各支部、既存の横断的な多くの会のご協力をいただき、今秋には、新発足のための総会の開催を計画しております。

こうすることによって、多くの会員が自宅が周辺の県（他の地域）にあるために勤務を引退したのちは、最終の所属支部ごとに別れ、あるいは所属を新しくしたが自宅のある支部にもなじみが少ないという前身校出身の方に、筑波大出身で諸先輩に会う機会が少ない、あるいは

同窓でも会う機会が少ないと感じている会員にも、いい機会が提供されればと考えております。

また、以前に「マスコミ茗溪会」とか「建設関係茗溪会」が開催されていたの話を聞くにつけ、多くの企業の活動拠点がある東京でこそ、教職以外の方も参加する機会がなければならぬと感じ「東京都茗溪会」が、その足がかりになるのではないかと考え、企業の方が参加できる、なるべく早い時期に実現させたいと活動しております。

そのことが、地方の各支部活動においても企業会員が参加するきっかけになつていくものと信じております。

そのためには、私たち「組織委員会」では、会員のための活動が第一であることは当然のこととして、会員以外の卒業生も多く、日頃、活発な活動をしている各クラブやサークルのOB会やクラス会とも連携をとれるような「茗溪会」の姿が作れないかと考えております。

それには、今回「東京都茗溪会」に本部事務局が協力することで、支部活動への支援ができれば、今後、いろんな形で、会員活動のお手伝いができるきっかけになるのではないかと思います。

また、そのような活動が、筑波大学同窓会としてのイメージの広がりにつながるのではないかと考えます。

東京教育大学の卒業生も60歳を越え、茗溪会も「一般社団法人」となり、茗溪創基141年開学40年の筑波大学にあつて、130年の歴史を持つ「同窓会・茗溪会」が「東京都茗溪会」の新発足により、新しいイメージを作り出すことの一環を担えればと思っております。

今後とも、みなさまの一層のご支援を賜りますようお願い致します。

注・組織委員会は、理事会内に設けられた5部門の委員会組織のひとつです。

## 新しいホームページがスタート!

一般社団法人茗溪会は、筑波大学との連携、協調関係を今まで以上に強めていくことをめざしています。そのため大学と茗溪会、本部と支部が相互に情報交換を行い、会員同士（学生と地元の先輩等）が活発に交流できる環境づくりを念頭に、ホームページのリニューアルを行っています。

一・トップページは、スライド形式による本部からの主なニュース(写真)や今後の主なイベント、季刊誌『茗溪』最新号の概要等で、筑波大学、茗溪学園等へのリンクもできます。

二・茗溪会については、その歴史、宣揚歌、定款、組織図・代議員、本部連絡先・アクセス等です。

三・支部紹介は、支部一覧、支部のニュースやイベント等の案内、支部の更新情報です。

四・ニュース・お知らせは、本部および支部等に関するニュース等の具体的な内容や更新情報です。

五・イベント情報は、本部および支部等の主催や共催等のイベント等を紹介します。

六・季刊誌『茗溪』は、最新号、バックナンバー、支部が発行している会報等を掲載します。

七・入会案内は、入会方法、会則や入会申し込みフォーム等を紹介します。

新ホームページは、会員がいつでも必要な情報交換ができることを目指しています。

既に会費を完納した会員の皆様に寄付を仰ぐ呼びかけをしておりますが、茗溪フェローへの応募が続いております。季刊誌『茗溪』の秋号に応募氏名等の一覧(中間報告)を掲載する予定です。

## 「茗溪フェロー」に

## 申込み続く!

# 茗溪学園だより

## JAXA宇宙飛行士 星出彰彦さん

### 母校訪問・講演会

4月15日、JAXA宇宙飛行士星出彰彦さんが来校し、昨年長期滞在した国際宇宙ステーションでの活動についてご講演をいただきました。

青いフライトスーツ姿で会場の体育館に入場した星出さんを、全校生徒1450人は歓声と大きな拍手でお迎えしました。講演では、船外活動や宇宙ステーション内の作業の様子を映像を使って説明され、「あまりにも楽しくて帰りたくなかった。とても充実した4か月間だった。」などとお話しされました。

「船外に出て怖くなかったのですか」、「宇宙飛行士になるためにどんな努力をされましたか」といった生徒達からの質問に対し、



全校生徒で星出さんを囲んで

「宇宙では闇の中に引き込まれそうで恐怖を感じた。」  
「宇宙飛行士になるための試験を3回受けた。2回落ちたが、次にトライするには何が必要かと考えて行動した。夢を叶えるための原動力は宇宙への強い思い、そして家族や仲間への支えがあったから実現できた。」などと答えてくださいました。

続いて、星出さんが5年間を過ごした寮に場所を移し、寮生と一緒に桜の木の記念植樹をしました。開校以来、寮門を行き交う寮生を見守ってきた2本の桜の原木がありました。そのうち、「御衣黄(ぎよいこう)」と呼ばれる桜が寿命を迎え衰弱してしまいました。そこで、新しい桜の苗木を、星出さんと植樹したいとお願いし実現いたしました。(星出さんの在寮時代は、寮生が最も多かった頃で、全校生の3分の1、450名が寮生活をしていました。現在は100名ほどです。)

生徒達は、夢に向かって着実に努力を積み重ねることの大切さを、改めて感じ取っていました。

## 桐創祭

本校の文化祭「桐創祭」は、毎年6月に行われます。毎年テーマが設定され、生徒達は、テーマに沿って自ら持つ創造力、企画力、表現力を駆使し、学校じゅう溢れんばかりにその活動が展開されます。それらの内容は、演劇、映画、アトラクション、バラエティ、パフォーマンス、飲食、音楽などに分類され、それぞれの部



桐創祭開会式は中学1年生の合唱で始まる。全校生徒が合唱を楽しみ校風がここから醸成される。

門ごとに表彰されたり、事前の活動計画書に対して実行委員会が厳しい指導を入れたりして、生徒達が互いにより文化度の高い文化祭を求めて築き上げてきた伝統と誇りのある活動といえます。

### 特別企画「ガレキとラジオ」

今年、実行委員会特別企画として、「ガレキとラジオ」という映画が上映されました。この映画は、東日本大震災の南三陸町の人々の活動を綴ったドキュメンタリー映画で俳優の役所広司さんがナレーションを務めています。5月から全国で上映され現在も続いています。この映画のお二人の監督は梅村太郎さん、塚原一成さんが本校の卒業生であることから、映画配給元に特別のお願いをして、本校での上映会となりました。上映当日は、塚原一成さんが来校してトークショーも行われました。2日にわたって4回上映され、あわせて400名ほどの入場者がありました。

桐創祭の後、本校生徒向けの上映会も行われました。映画を見た生徒達は、被災地の現実を直視し、その中でくじけそうになりながらも、みんなで力を合わせて力強く前進する人々の姿を知り、自分にできることは何かを考えているようでした。

この映画は入場料収入が宮城県や南三陸町などに寄付されるというものでしたので、桐創祭では無料上映としましたが、本校後援会や父母会のご協賛をいただき、映画配給元を通じてご寄付をさせて頂きました。



塚原監督を囲んでトークショー 司会は本校生徒で石巻プロジェクト(石巻市で復旧活動を調査研究している)のメンバーが務めた。



桐の葉のつどい

同期入学、卒業または同行のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆山紫会(昭和34年東京教育大学文学部東洋史学専攻入学者の会)

とき 平成25年6月5日(水)～6日(木)

ところ 宿泊は東京の御茶の水にある「東京ガーデン ホテル」

還暦後は毎年会員の出身地でクラス会を開催してきたが、今年は卒業50周年と恩師中嶋敏先生の七回忌にあたるので、東京で開催した。先生のご子息の誠さんと相談して、中野の天徳院(住職の大藪正哉氏は40院博東史)で行われる法要に10人が参加させていただいた。宿泊した東京ガーデンホテルには14人の会員のうち11人が集まり、北原兄が自らぶどうを栽培し、醸造したワインをいただき、夜遅くまで歓談した。翌日は駒込の「六義園」と「東洋文庫ミュージアム」を参観した。「東洋文庫」は学生のころに史料閲覧や研究会の会場として、お世話になった所であり、近年「ミュージアム」を併設したので常設展と企画展を参観した。

写真 柴崎正行 文 高原 將



著書紹介

なぜ昆布は死んでからダシが出るのか

著者 横浜康継(昭33教大植、昭39院博植)  
電子本 (Kindle版) 500円  
ファイルサイズ1670キロバイト

出版社 インプレスコミュニケーションズ  
(紙の本に換算すると約68ページ)

「生きるとは?—海の森林が教えてくれたこと」という副題が付いている。海藻研究者の著者が震災前後に執筆した『自分さがしの自然観察—私たちはなぜ生きてる?』(生物研究社、B6判210ページ、1,890円)に続いて、電子本で人生を語った。学生時代の思い出も多く、同窓生には興味深い内容だ。

下田臨海実験センターで34年間を過ごし、同センター長を務めた後、宮城県志津川町(合併後は南三陸町)に同地の自然環境活用センター長として招かれた。磯観察や「海藻おしほ」を通して広く海洋生物の魅力発信してきたが、その施設は12年間の記録もろとも津波にのまれてしまった。章ごとに挿入された写真は、いろいろ残った貴重なフィルムである。

同書は「アマゾン」や「楽天」で発売中。インターネットにアクセスして検索・購入・ダウンロードすると、Kindleやスマートフォンなどで読める。

北村千代(平9筑二生)

平成二十五年春の叙勲  
おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

日沼 混治	24文二	27	27	27	27
松井 一磨	32教大教	34	34	34	34
伊藤 鈞	32教大教	33	33	33	33
増田 実	36教大教	34	34	34	34
吉沢 茂弘	30教大教	34	34	34	34
長 成吉	28大化	34	34	34	34
小玉喜三郎	41教大地鉦	43	43	43	43

(北海道) (宮城) (茨城) (茨城) (栃木) (群馬) (東京)

瑞宝小綬章

樋口 禎一	35院修数	38	38	38	38
小宮 要	31教大教	33	33	33	33
水越 允治	28教大地理	34	34	34	34
青沼 龍雄	31教大教	34	34	34	34
團 琢磨	31教大教	34	34	34	34
池川 敏幸	29教大工芸	34	34	34	34
藤瀬 孝	30教大教	34	34	34	34
岡田 芳一	35教大総農	34	34	34	34
今井 英男	39教大日史	34	34	34	34
荒井 桂	33教大東史	34	34	34	34
花岡 愛夫	38教大哲	34	34	34	34
木村 卓	37教大東史	34	34	34	34
永田 昭男	35教大教	34	34	34	34
国分 康孝	28教大教	34	34	34	34

(神奈川) (山梨) (三重) (兵庫) (岡山) (香川) (大分) (大分) (山形) (山形) (埼玉) (埼玉) (千葉) (千葉) (千葉) (千葉) (千葉)

瑞宝双光章

窪田 孝美	41教大教	(長野)
前田 正紀	37教大動	(福井)
石樽 詔之	40教大教	(岐阜)
吉井宏一郎	39教大健	(兵庫)
坂田 友宏	33教大國	(鳥取)
井谷 義昭	32教大教	(徳島)
松村 通治	42教大東史	(徳島)
五ノ坪和彦	40教大教	(香川)
山元 篤朗	36教大專攻	(鹿児島)
奥田 謙一	37教大日史	(栃木)
福岡 久雄	30教大農化	(東京)
武藤 忠春	26芸	(東京)
衣斐 基夫	41教大教	(岐阜)
木本 明男	36文図養成B	(大阪)

◆東京教育大学体育学部昭和33年同期会

と き 平成25年 5月21日(火)

と ころ 「おがわ」文京区音羽 2-11-81

今までに無く全員が真剣なまなざしで写っている。何人の仲間が集まってくれるか今回も不安だったが、いつもの通りの30名。多少入れ替わりがあってもその心配は消し飛んだ。

やがて、このほとんどが80の坂を越えるが、皆元気、それに若い。よく飲み、沢山食べ、昔を語り合った。来年も同じ顔ぶれでこの会を迎えられるのを祈る。

(写真：横田正人、文：渡部岑生)



◆東京教育大学体育学部昭和38年 3月卒業 (卒業50周年記念)

と き 平成25年 3月23日(土)

と ころ 茗溪会館



◆大塚人文地理学OB会 (第6回)

と き 平成25年 6月 8日(土)

と ころ 茗溪会館

大塚の地で人文地理学を学び、大学その他で研究と教育にあたってきた関東在住者を中心として、気楽な交流の場をもちたいという趣旨で始め、本年で6回になりますが、26名が参加しました。90歳代の長老から60歳の現役まで、幅広い世代が一同に集まって、いつも通り活気のある会になりました。来年も元気で再会することを期して解散いたしました。

内山幸久 (46院博地理) 写真

田林 明 (50院博地理) 記





◆博報堂OB茗溪会

とき 平成25年3月28日(木)  
ところ 茗溪会館

昭和30年代、40年代に卒業し、教職就職が多い中で一般会社へ飛び出した仲間、縁あって広告会社博報堂でもともに仕事をした仲間も定年を迎えた。この仲間は、茗荷谷の旧東京教育大の面影が残る会館で毎年桜咲く3月末に昼飯会を開いている。今年も12名の仲間が近況報告をしながらの歓談。参加者は占春園と旧キャンパスの写真で学生時代を偲んだ。会社本社所在地は、神田、丸の内、田町、赤坂と移転しているが、茗溪仲間の顔は変わらない。来年も会館を同時期に予約して今年の会も終わった。 長坂邦彦



◆東京教育大学体育学部 昭和28年卒同期会

とき 平成25年5月11日(土)  
ところ 銀座 黎花(薬膳料理)

大学卒業60周年を記念して同窓会を開催、新装された歌舞伎座を眼下に眺めて薬膳料理を囲み、16名(90~83歳)で旧交を温めた。卒業生の約半数は他界しており、今回で同期会を終了することになった。出席者は1列目左から長谷川、渡辺、大園、高橋、古藤、大塚、元、同夫人、二列目左から永嶋、工藤、伊藤、佐伯、本多、根岸、志村、中島、大塚夫人、福本

幹事：中島・伊藤・永嶋・福本・本多



◆三四会(東京教育大学 理学部 数学科 昭和34年卒)

とき 平成25年5月23日(木)  
ところ 茗溪会館

卒業して54年、通算46回めの三四回である。2000年の33回から隔年に、四国、新潟、茨城、...と開催してきたが、10年振りに茗溪会館で開催した。会員が皆、喜寿前後となり、今年は何人集まるかと心配したが、例年並みに15人の出席を得た。遠路の福岡、新潟、松本からのほか、1月に余命3か月と宣告された者が見事治療を克服して出席してくれたからである。奇しくも、当日正午過ぎに三浦雄一郎氏が3度目のエベレスト登頂に成功したとの報を聞き、全員が勇気づけられた。来年も5月23日に皆元気で会うことを約束して解散した。 文・写真 龍井昇治



◆東京教育大学文学部英文科 昭和32年卒

とき 平成25年4月9日(火)  
ところ 筑波大学漕艇部戸田艇庫 土方REUNION HALL

東京教育大学、筑波大学の漕艇部を60年の長きに亘って献身的に、支え続けて来た同級生の土方の名前を冠した建物が出来て、今年のクラス会はここにしました。新築のホール、戸田静水路、エイトなどのボート類見学、大感激だった。また飲食の世話は土方夫人にすべてして頂き、本当に有難く、恐縮した。 幹事：浅羽



◆東京教育大学 昭和30年卒法政クラス会

とき 平成25年4月3日(水)  
ところ 茗溪会館

学窓を巣立ってから2度の節目の年に記念の集いをもつ。その後、中断を経て平成12年にクラス会を再開。毎年桜花の季節に茗溪会館で会を継続。

しかし、加齢と共に出席者が漸減。この様な会を本年度で終えることとし、最後の集いを開催。話題は万象に及び、和気藹々のうちに「桐の葉」の高唱で会を締めくくった。今後は時には思い立っては集い、旅する様な交流が続くことを願う。

幹事：梅澤 有・須郷榮司



◆茗駒会(昭和28年東京教育大学農村経済学科入学)

とき 平成25年6月5日(水)  
ところ 渋谷マークシティ25F

11:00に井の頭線「駒場東大前」集結。日本近代美術館/旧前田侯爵邸洋館/日本民藝館/旧駒場駅踏切/日本最初の教育実習田/区立駒場体育館/大学入試センター/筑波大附属駒場中学校・高等学校など旧農学部跡を中心に散策。上記ビルの高所から東方を俯瞰、遠望しながら会食、傘寿に至るまでの各人の軌跡を語り合った。再会を約しつつ15:00過ぎ渋谷駅で解散。充実したひとときであった。 幹事：村田宣夫、北原信夫 写真・文責：小島貞明



# 追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・  
遺族住所・氏名

松島弥太郎 昭13理一 25・2・26 〒371-0804 前橋市六供町368-2	妻 松島 敦	須田 弘 昭27文三 24・12・3 〒165-0024 中野区松が丘1-14-1-207	妻 須田 信子
玉木 弘 昭16理一 25・1・21 〒273-0867 船橋市夏見町2-497-1	妻 玉木 ミサ	忽那 凱樹 昭27体 25・1・12 〒658-0066 神戸市東灘区渦森台2-3-302	妻 忽那アキ子
湯ノ谷賢一 昭17体一 25・2・11 〒840-0023 佐賀市本庄町袋363-6	妻 湯ノ谷マサ	志賀 義雄 昭28大東史 25・5・3 〒640-8453 和歌山市木ノ本1496-147	二男 志賀 弘明
坂下四方吉 昭18傷軍数 25・1・25 〒390-0221 松本市里山辺920	妻 坂下かつみ	荒井 淳雄 昭28教大数 24・10・23 〒156-0043 世田谷区松原6-24-21	妻 荒井 和子
藤野 弘 昭22体 25・5・29 〒819-0383 福岡市西区田尻2360	妻 藤野 和子	石田 德行 昭31教大東史 24・12・4 〒420-0804 静岡市葵区竜南1-14-35-306	妻 石田 玲子
辰巳 千昭 昭24理一 25・3・30 〒154-0022 世田谷区梅ヶ丘3-4-8	妻 辰巳 照枝	中島 貞夫 昭31教大物 25・3・29 〒563-0042 池田市宇保町2-6	妻 中島布弓美
藤田 暉輔 昭24理三 24・8・16 〒959-1705 五泉市村松町乙709	妻 藤田 景子	野見山俊一 昭33教大体 24・7・16 〒862-0971 熊本市大江3-10-46	妻 野見山日子
寺尾 光史 昭25大数 24・10・29 〒111-0032 台東区浅草1-36-1	妻 寺尾 恭子	小口 和夫 昭35教大哲 25・1・17 〒211-0051 川崎市中原区宮内4-3-36	妻 小口 周子
西澤 利栄 昭25理二 25・2・4 〒145-0071 大田区田園調布1-15-5	妻 西澤 順子	佐藤 和彦 昭37教大教 24・7・11 〒798-4135 南宇和郡城辺町緑丙840	妻 佐藤美奈子
渡辺 泉 昭25理三 24・2・21 〒201-0013 狛江市元和泉2-19-10	妻 渡辺 光代	中村 俊也 昭41教大漢 25・3・12 〒302-0024 取手市新町6-32-14	妻 中村 容子
和田 優 昭25理三 24・9・3 〒370-0851 高崎市上中居町199-6	妻 和田 牧恵	畑山 明 昭41教大体 24・6・25 〒658-0064 神戸市東灘区鴨子ヶ原2-3-22-410	妻 畑山 利子
勝井 晃 昭26大心 24・12・30 〒420-0841 静岡市葵区上足洗3-3-18-13	妻 勝井 和子	森井 博之 昭59筑修体 24・12・20 〒619-0224 相楽郡木津町兜台1-2-4-302	長男 森井 博一
鈴木 隆 昭26文四 25・2・27 〒235-0033 横浜市磯子区杉田3-7-26-402	長男 鈴木 淳		

## 一般社団法人茗溪会 代議員選挙のながれ

### 正会員とは

- ・最近2年間会費滞納なし
- ・35回完納会員

- 正会員
- 正会員
- 正会員
- 正会員
- 正会員

支部規定推薦数	
支部正会員数	推薦数
1～299	1
300～499	2
500～699	3
700～899	4
900～1099	5
1100～1299	6
1300～1499	7
1500～1699	8

- 正会員
- 正会員
- 正会員
- 正会員
- 正会員

立候補

推薦

投票

公 示

支 部 長  
とりまとめ

本 部  
選挙管理委

投 票

代議員決定

### 事前準備

立候補届送付先(支部長住所)は支部組織表による。㊗切 **7/31**  
正会員名簿、立候補届様式 支部へ送付

代議員選挙公示日 **10/20**  
季刊誌『茗溪』秋号(10/15)同封  
全会員宛

立候補㊗切 **11/5**  
立候補者、推薦候補者をとりまとめ、本部へ報告  
参考：支部の規定推薦数

候補者を推薦  
㊗切 **11/20**

全国の候補者をとりまとめ  
(代議員規定数以内のときは無投票)  
季刊誌『茗溪』正月号(1/15)同封  
正会員宛

候補者一覧  
投票用紙

投票用紙を本部選管へ郵送  
投票㊗切 **2/10**

季刊誌『茗溪』春号(4/15)同封  
正会員宛



## 本部だより

### 茗溪会第2回定時総会開く

一般社団法人に移行して2回目となる平成25年度定時総会は、去る5月30日(木)に茗溪会館を会場に開催されました。(本誌3ページ以下参照)

この総会では、岩崎庸男理事の死亡退任に伴う理事の後任補充として、神林 喬氏(昭40教大教・元日本放送教育協会常務理事)が選任されました。また、本年度の総会では、理事長挨拶でも強調されているように、「ゴ1・5・go作戦」を合い言葉とする「茗溪会拡充キャンペーン」が打ち上げられ、茗溪会の会員増、収入増、経費削減に向けた施策が提案されました。その具体策として、「茗溪フェロー」の創設、ホームページのリニューアル、支部への会費還元強化などが説明されました。

また、今年度は平成26年度の代議員選挙を実施するため、支部への協力の呼びかけがありました。

### 支部総会開催について

6月から7月中に支部総会が開催される支部(予定含む)は次のとおりです。(本部から理事が派遣される支部のみ)

秋田(6/8) 大阪(6/8) 筑波大(6/10) 長野(6/23)  
群馬(6/29) 栃木(6/29) 静岡(6/30) 茨城(6/30)  
新潟(7/6) 奈良(7/6) 富山(7/6) 愛知(7/6)  
神奈川(7/6) 愛媛(7/7) 千葉(7/7) 三重(7/15)  
また支部総会を開催していない支部においても、支部総会の開催をお願いいたします。

### 「茗溪フェロー」ご協力有難うございます

茗溪会が完納会員に呼びかけた「茗溪フェロー」寄付金に、さっそく多数の方のご協力をいただきました。ありがとうございました。さらに呼びかけを強化します。完納会員の方々からいただいた寄付金は、今後の茗溪会の事業に大いに活かし、筑波大学の在学生及び卒業生の活動を支援してまいります。

### ホームページをリニューアルします

茗溪会のホームページリニューアルの作業が遅れていて申し訳ございません。7月からアップしました。新しいホームページは、見やすい画面になっています。とくに支部のページを充実させ本部・支部のニュースを随時掲載します。また、宣揚歌などは音も出ます。ぜひご覧ください。

### 岡 勇氏がブルーブル美術館から勲章

本会元会員で東京高師芸術科22年卒の故岡 勇さんが、このほどブルーブル美術館世界文化遺産登録20周年記念として「フランス芸術最高勲章」を受章されました。受章の対象となったのは岡さんの作品「窓(フランス)」で、「正統的で抑制の利いた古典技法を縦横に駆使し、モダンで温かな画風で一時代を築いた作家」(ニコリスティヌ・モノー)と評価されています。岡さんは、元一水会会員、海外芸術交流協会名誉会員、サロン・ド・ロートレック正会員で、一水会賞など国内外多数の受賞がありますが、平成18年ご逝去されました。貴重な作品のうち「出漁」(二〇〇号)を登美子夫人から茗溪会へ寄贈されています。

## 茗溪会の公開講座

—今後の予定—

### 東京地区

9月14日(土)

14時〜 東京・茗溪会館

「地名と人名から探る英語圏の文化」

〜藤原教授の英語の話 第7弾

講師 藤原保明(筑波大学名誉教授)

10月12日(土)

14時〜 東京・茗溪会館

「この秋楽しむ宿根サルビア」

講師 西川綾子(水戸市植物公園長)

### つくば地区

11月16日(土)

14時〜 筑波研修センター

「ことわざから探る英語圏の文化」

〜藤原教授の英語の話 第8弾

講師 藤原保明(筑波大学名誉教授)

### 編集後記

・特集1は「第2回 定時総会」の報告で、理事長挨拶、筑波大学学長祝辞、出席代議員一覧、総会要旨、平成24年度の事業報告・決算、平成25年度の事業計画・予算などを掲載しました。本会の活動の様子をご承知ください。

・特集2は、公開講座「筑波大学ラグビーの軌跡」と題して4月30日から30日までと、5月11日から6月2日まで茗溪会館で開催された講演と企画展の報告です。4月30日のオープニングセレモニーと中川昭氏と古川拓生氏の講演の要旨、5月11日に開催された会での江田昌佑氏(本会理事長)の基調講演とパネルディスカッションはたいへん中身の濃いものでした。

### お願い

・年会費のお振込みは、早めをお願いいたします。

### 表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔 氏

平成25年7月15日発行

編集兼発行人

田中正造

発行所

一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局

112-0012 東京都文京区大塚一-五-二三

TEL 〇三-三九九四-〇一三六

FAX 〇三-三九九四-一七六七

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇-一五〇-二四九七七

茗溪会筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一-一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九-八五〇-〇一〇四四

FAX 〇二九-八五〇-〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所

東京都文京区関口一-三九-一〇

山浦印刷株式会社



日本のバウムクーヘンの歴史は  
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。  
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは  
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim  
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)  
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

## 食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /  
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。  
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



### 学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。  
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、  
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。  
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。  
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの  
サポートも可能です。

### 寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを  
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、  
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を  
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること  
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理  
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

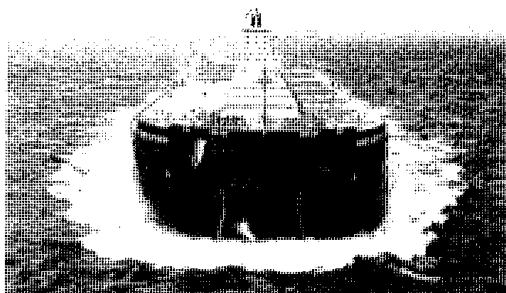
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-12-13 渋谷シダックスビルレジ  
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

*Ships 21 Co., Ltd.*  
*shipbrokers*



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介  
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の  
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が  
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見  
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



Service Safety Sincerity  
あなたのそばに。セキショウグループ。

**SEKISHO**  
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学  
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の  
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

茗溪会担当: 執行役員総務部長 岡本 俊一  
(昭和56年 第一学群社会学類卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



6月15日新刊発行 /



1935年、大恐慌で失業者があふれるアメリカで、社会保障法が成立した。伝統的に自助や個人主義が重んじられてきたアメリカで、なぜこの時期に社会保障制度が誕生したのだろうか。またそれは、どのような保障を国民に与えたのだろうか。

本書は、フランクリン・D・ローズヴェルト大統領が行ったニューディール政策の一環として制定された社会保障法を様々な角度から検討し、アメリカ型の福祉国家の起源を明らかにする。

A5判並製/234頁/3,200円+税  
ISBN978-4-904074-27-5 C3036

【主な目次】

- 序 論
- 第1章 1935年社会保障法の制定  
— 経済保障委員会による立案とニューディール —
- 第2章 1932年ウィスコンシン州失業補償法とニューディール  
— ウィスコンシン派の思想とラフォレット知事による州政治を中心に —
- 第3章 母親年金から児童扶助へ  
— 1935年社会保障法とジェンダーに関する一考察 —
- 第4章 エイブラハム・エプスタインと1935年社会保障法の制定  
— オルターナティブの封じ込めについて —
- 第5章 1935年社会保障法と健康保険をめぐる議論  
— エドガー・サイデンストリッカーとイジドール・S・フォークの構想を中心に —
- 第6章 直接救済・社会保険・公的扶助をめぐる相剋  
— 1935年社会保障法のヴァージニア州への導入 —
- 結 語、索 引

【今後の刊行予定】

- ◇ 感性認知脳科学への招待
- ◇ 筑波大学新聞で読む筑波大学の40年

<p><b>一般社団法人 食医同源之会</b> 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6 オリムピアビル6F TEL&amp;FAX 03-3654-2410 理事 渡邊 悟 (56筑二農・62筑院博農) <a href="http://syokuidougen.main.jp">http://syokuidougen.main.jp</a></p>	<p><b>堀内法律事務所</b> 〒305-0025 つくば市花室1011番地 TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412 所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)</p>	<p>相続・会社等設立・著作権 etc... <b>行政書士 高谷真一事務所</b> 〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号 TEL&amp;FAX 029-821-8177 代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)</p>
<p><b>海城中学・高等学校</b> 〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1 電話 03-3209-5880 校長 水谷 弘 (昭40教大数)</p>	<p>学校法人国際学園 <b>星槎大学 共生科学部</b> 〒227-0053 横浜市青葉区さつきが丘8-80 電話 045-979-0261(代) アドバイザー 本木 幹雄 (50教大体) <a href="http://www.seisa.ac.jp">http://www.seisa.ac.jp</a></p>	<p><b>聖徳大学 文学部</b> 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 電話 047-365-1111(代表) E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp 学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)</p>
<p>経営の本質を学び実践する者が集う研鑽の場 <b>経営に心と道を</b> ●業界や世代を超えた異業種交流研修 ●フォーラム終了後の生進ネットワーク <b>3,000名以上の修了生から400名以上の社長を輩出</b> <b>KAE 山城経営研究所</b> 山城経営研究所 検索</p>	<p><b>JUWA</b> 株式会社 十和観光 代表取締役 井坂信洋 URL <a href="http://www.juwa.com">http://www.juwa.com</a> E-mail <a href="mailto:travel@juwa.com">travel@juwa.com</a> 〒300-2451 茨城県つくばみらい市茨輪254 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220</p>	<p><b>SPORTS COMPANY 株式会社 スポーツカンパニー</b> 〒130-0026 東京都墨田区両国1-16-7 朋林ビル6F TEL 03-3635-4711 <a href="http://sportscompany.co.jp">http://sportscompany.co.jp</a> 取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)</p>
<p><b>永井建設株式会社</b> 〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7 電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940 営業部長 高野 力 (昭48教大木工)</p>	<p><b>印刷・製本までトータルに対応</b> <b>株式会社 ケエスアイ</b> 本社営業部 〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16 ☎06-6652-8888 06-6652-8484</p>	<p><b>株式会社 長谷工 コーポレーション</b> 〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号 電話 03(3456)1578 執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)</p>

# 筑波での宿泊・研修に

ご家族で、お仲間

最大収容180名、お一人3,600円から／茗溪会員とご家族に割りあり  
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に  
シングル145室 ツイン5室 和室5室／研修室2室 (120・40名)  
和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)  
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス

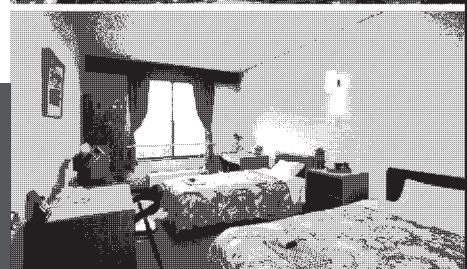
秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車  
●バス／「筑波大学循環」3丁目「筑波メディカルセンター前」下車  
徒歩8分 ●つくば駅からタクシー／5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

## 筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5  
TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail:center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは  
筑波大学同窓会会員の  
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

## 35年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも「結婚」という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース 登録料  
50%OFF

ブライダルコース  
¥220,500 ▶ ¥204,750 etc.

エクセレントコース  
¥378,000 ▶ ¥362,250 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。  
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ  
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ  
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>  
<http://www.bridal-vip.net/m/>

右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



35年の実績  
株式会社

ブライダル

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F  
Network / 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪





# 茗溪会館

## ☆御 婚 礼

ご披露宴割引

茗溪会々員	10%
会員ご家族	5%

## ☆ご 会 合(祝賀会・ご法宴・研修会など)

- ・ビュッフェスタイル
- ・フランス・中華各コース料理

ご会合のことなら おまかせ下さい。

## ☆グ リ ル(お食事・喫茶)

## (株) 茗 溪 サ ー ビ ス

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

☎ 03-3943-0321

FAX 03-3943-0815

東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車徒歩2分



# 桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群  
ビジネスマネジメント学群 / 総合文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士  
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

### 【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



## 東京ビジネスホテル

### 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同) ¥ 6,300→¥ 4,500

シングルA (バス・トイレ付) ¥ 7,980→¥ 5,800

ツイン (バス・トイレ付)

¥12,810→平日¥9,800 土・祝前¥10,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥735

大浴場時間 : 7:00~9:00 17:00~24:30



東京都新宿区新宿6-3-2

TEL 03 (3356) 4605

FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線	新宿御苑前駅	1番出口	} より徒歩7分
都営新宿線	新宿三丁目駅	C7出口	
地下鉄副都心線	新宿三丁目駅	E2出口	

JR新宿駅より車5分

## 茗溪会館写真スタジオ

ご婚礼・成人式・七五三・ご入学卒業写真・証明写真  
家族写真・集合写真・出張撮影等・卒業アルバム作成



〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館

(株)東京科学光芸社

3階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

# 茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)  
校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1  
<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です

## 平成25年度公開行事

9月 7日(土) 高校受験生見学会  
10月 1日(火)~6日(日)  
茗溪学園美術展  
会場：茨城県つくば美術館  
10月26日(土) 学園入試説明会  
1月31日(金) SS研究・個人課題研究発表会  
会場：筑波大学・大会会館



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、  
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」  
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)